

井原市教育委員会事務
点検・評価報告書

(平成29年度事業対象)

平成30年12月

井原市教育委員会

井原市教育委員会委員名簿

(平成30年3月31日現在)

教育長 片山正樹

教育長職務代理者 藤井秀彦

委員 奥田隆夫

委員 佐藤和代

委員 西田友美

目 次

I	教育委員会の事務の点検・評価制度の概要	
1	教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について	1
2	井原市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施方法等について	1
	(1) 点検・評価の目的	
	(2) 点検・評価の対象	
	(3) 点検・評価の方法	
	(4) 教育に関し学識経験を有する者の知見の活用	
II	教育委員会の活動状況	
1	教育委員会会議の開催状況	3
2	その他の主な活動	6
III	平成29年度 教育委員会事務事業評価表	
	重点施策Ⅰ 「生きる力」を育む学校づくり（学校教育の充実）	8
	重点施策Ⅱ 心豊かでたくましい人を育てる生涯学習のまちづくり	13
	重点施策Ⅲ 豊かな感性を育むまちづくり（スポーツ活動の充実）	20
	重点施策Ⅳ 地域文化を体感できる活力あるまちづくり	23
	重点施策Ⅴ 生きる力を育むひとづくり・まちづくりのための学習環境づくり （時代に対応した教育施設・機能の整備、充実）	26

I 教育委員会の事務の点検・評価制度の概要

1 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「地教行法」という。）の一部改正により、平成20年4月から、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価（以下「点検・評価」という。）を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、これを公表することが義務付けられた。

併せて、点検・評価を行うにあたり、教育に関する学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされた。

この報告書は、同法の規定に基づき、井原市教育委員会が行った点検・評価の結果について報告するものである。

2 井原市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施方法等について

(1) 点検・評価の目的

点検・評価は、上記地教行法第26条の規定に基づき、教育委員会が教育長以下事務局を含め、教育に関する事務の管理及び執行状況を点検・評価することにより、重点化等を図るべき分野を明確化するなど、市民が求める質の高い教育を提供することに資するとともに、住民に対する行政の説明責任を充実させ、教育行政に対する市民の信頼性の向上を図ることを目的としている。

(2) 点検・評価の対象

ア 対象期間

平成29年度を対象期間とする。

イ 対象事務

地教行法に規定する教育委員会の権限に属する事務を対象事務とする。

(3) 点検・評価の方法

「平成29年度教育行政重点施策」の施策・内容・実施事業について、次の達成度により評価した。

・達成度（A～E）

A・・・成果を上げ、目的を達成している。

B・・・目的をほぼ達成している。

C・・・目的は達成していないが、前年度より改善され一定の成果をあげている。

D・・・目的は達成しておらず前年度より悪化しており、十分な成果があがっていない。

E・・・実績を未把握。

※・・・不可抗力の理由により事業を実施できず評価不能。

(4) 教育に関し学識経験を有する者の知見の活用

地教行法第26条第2項の規定により、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るため「井原市教育委員会事務事業第三者評価委員会」において、教育委員会事務局が行った点検・評価（自己評価）の結果に対し、第三者評価委員会委員として委嘱した学識経験者5名から所見・助言を得た。

第三者評価委員会委員の選任にあたっては、本市の「教育現場」への理解度の深さを前提に、教育行政現場における実務経験及び各分野における専門性等を考慮し委嘱した。

○井原市教育委員会事務事業第三者評価委員会委員

氏 名	役 職 等
山 本 嵩 之	元県立井原高等学校長
岡 田 範 子	井原市社会教育委員
山 崎 佳 孝	井原市体育協会 副会長
原 田 繁	井原市文化協会 副会長
三 宅 興太郎	元井原市教育長

《参考》

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

II 教育委員会の活動状況

1 教育委員会会議の開催状況

井原市教育委員会の会議は原則として公開で、毎月1回の定例会のほか、必要に応じ臨時会を開催している。

この会議において、教育長と4名の教育委員が教育行政の運営の基本方針や教育委員会の規則の制定改廃、教科書の採択など、会議において議決を要する事項について審議・決定を行うとともに、重要事項について事務局から報告等を受けている。

このほか、学力向上や不登校防止に係る諸問題、教育委員会会議概要の公開などを協議案件として、事務局との質疑応答や意見交換、教育委員間での協議を行った。

平成29年度の教育委員会会議の開催状況は次のとおりである。

期 日	場 所	附 議 案 件 等
平成29年 4月定例会 (29.4.21)	市役所 403 会議室	【報 告】 <ul style="list-style-type: none"> ・井原市教育委員会職員の人事異動について ・稲倉公民館運営審議会委員の委嘱について ・芳井公民館分館長の任命について 【議 案】 <ul style="list-style-type: none"> ・井原市美星天文台運営委員会委員の委嘱について ・井原市教育委員会事務局処務規程の一部を改正する規則について ・井原市教育委員会表彰規程等の一部を改正する規則について
5月定例会 (29.5.24)	市役所 403 会議室	【報 告】 <ul style="list-style-type: none"> ・井原市立学校評議員の委嘱について ・木之子公民館運営審議会委員の委嘱について ・県主公民館運営審議会委員の委嘱について ・芳井公民館運営審議会委員の委嘱について ・出部公民館運営審議会委員の委嘱について ・西江原公民館運営審議会委員の委嘱について 【議 案】 <ul style="list-style-type: none"> ・井原市教育審議会委員の委嘱について ・井原市特別支援教育就学指導委員会委員の委嘱について
6月定例会 (29.6.23)	市役所 403 会議室	【報 告】 <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度井原市一般会計補正予算(第1号)について

		<ul style="list-style-type: none"> ・青野公民館運営審議会委員の委嘱について ・荏原公民館運営審議会委員の委嘱について ・高屋公民館運営審議会委員の委嘱について ・野上公民館運営審議会委員の委嘱について ・井原公民館運営審議会委員の委嘱について ・大江公民館運営審議会委員の委嘱について <p>【議案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・井原市奨学資金借受者の決定について ・井原市スポーツ推進計画策定委員会設置要綱について
7月定例会 (29.7.19)	市役所 503 会議室	<p>【報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度岡山県学力・学習状況調査の結果について <p>【議案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度使用井原市立高等学校教科用図書の採択について ・井原市幼稚園教諭採用試験委員会委員の委嘱について ・井原市立小学校及び中学校の通学区域の一部改正について ・井原市社会教育委員の委嘱について
7月臨時会 (29.7.31)	市役所 403 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度使用井原市立小学校教科用図書の採択について
8月定例会 (29.8.18)	文化財 センター 2階研修室	<p>【報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲倉公民館運営審議会委員の委嘱について <p>【議案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・井原市スポーツ推進計画策定委員会委員の委嘱について
9月定例会 (29.9.22)	市役所 503 会議室	<p>【報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員の任命について ・平成29年度井原市一般会計補正予算(第2号)について ・平成29年度全国学力・学習状況調査の結果について
10月定例会 (29.10.26)	市役所 503 会議室	<p>【報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・井原市中央公民館運営審議会委員の委嘱について <p>【協議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度井原市教育委員会事務事業評価について

<p>12月定例会 (29.12.20)</p>	<p>市役所 403 会議室</p>	<p>【報 告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度井原市一般会計補正予算（第5号）について <p>【議 案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・井原市奨学資金貸付条例施行規則の一部を改正する規則について ・平成29年度末井原市教職員人事異動方針について ・平成30年度全国学力・学習状況調査への参加について ・井原市市費負担教員の任用等に関する規則の一部を改正する規則について
<p>平成30年 2月定例会 (30.2.14)</p>	<p>市役所 403 会議室</p>	<p>【報 告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県教育委員会の権限に属する事務の移譲について <p>【議 案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・井原市立図書館協議会委員の任命について <p>【協 議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度教育行政重点施策について ・平成29年度卒業式について
<p>3月定例会 (30.3.23)</p>	<p>市役所 403 会議室</p>	<p>【報 告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度井原市一般会計予算（教育費関係）について <p>【議 案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度教育行政重点施策について ・井原市遠距離通学費補助金交付要綱の一部改正について ・井原市立幼稚園園則の一部改正について ・井原市公民館長の任命について ・井原市スポーツ推進委員の委嘱について ・平成29年度末井原市教職員人事異動の内申について <p>【協 議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度 入学式について ・井原市スポーツ推進計画（第2期）の策定について

2 その他の主な活動

教育委員は、教育委員会の会議に出席するほか、適宜、各種会議・関係行事へ出席している。
平成29年度におけるその主な活動は次のとおりである。

月 日	会議・研修会等	場 所
平成29年 4月10日 ～12日	入学（園）式	市立高校 1校 市立小学校 13校 市立中学校 5校 市立幼稚園 13園
4月19日	岡山県都市教育委員会教育長協議会第1回定例会	津山市役所
4月26日	教育問題懇談会	岡山県総合教育センター
5月 8日	市町村教育委員会教育長等人権教育連絡会	岡山県総合教育センター
5月 9日 6月 5日	新任管理職表敬訪問	矢掛町・笠岡市
5月18日 ～19日	第69回全国都市教育長協議会定期総会・研究大会	奈良県奈良市
5月26日	教育審議会	井原市役所
7月11日	岡山県市町村教育委員会連絡協議会総会	くらしき健康福祉プラザ
7月20日	中国地区市町村教育委員会連合会研修大会	広島県東広島市
7月21日	岡山県都市教育委員会教育長協議会臨時会	サンピーチ岡山
7月28日	7月期教育長連絡会議	ピュアリティまきび
8月17日	教育審議会学校教育部会	井原市役所
8月18日	教育審議会生涯学習部会	文化財センター
8月24日	井原市教育講演会	芳井生涯学習センター
10月 1日	第55回井原市民体育祭	井原運動公園陸上競技場
10月10日	井原市教育審議会	井原市役所
10月16日	岡山県市町村教育長意見交換会	岡山県庁
10月17日	岡山県都市教育委員会教育長協議会	瀬戸内市保健福祉センター
10月20日	井原小学校研究発表会	井原小学校
10月25日	木之子小学校研究発表会	木之子小学校
10月27日	野上小学校研究発表会	野上小学校
10月31日	10月期教育長連絡会議	ピュアリティまきび
11月 7日	岡山県市町村教育委員会連絡協議会研修会	ライフパーク倉敷

1 1月14日 ～15日	井原市教育委員県外視察	富山県魚津市
1 1月21日	教育委員会事務事業第三者評価委員会	井原市役所
1 2月18日	教職員の育成・評価システム検証推進委員会	岡山県庁
1月24日	岡山県都市教育委員会教育長協議会 第3回定例会	赤磐市立中央図書館
1月30日 ～31日	岡山県都市教育委員会教育長協議会 教育行政視察	福岡県飯塚市
1月27日 ～28日	第38回まなびフェスタ in いばら	アクティブライフ井原
3月 1日 ～20日	卒業（園）証書授与式	県立高校 2校 私立高校 1校 市立高校 1校 市立小学校 13校 市立中学校 5校 市立幼稚園 13園

平成29年度 教育委員会事務事業評価一覧表

教育行政重点施策体系

I 「生きる力」を育む学校づくり（学校教育の充実）

施策	事業	内容	自己評価		課題解決に向けた取組、展望等	第三者評価		
1. 確かな学力の育成 (1) 幼児教育の充実	幼稚園教育要領に基づく保育実践の充実	各幼稚園の要請訪問等で研究テーマに基づいた教育要領の読み合わせ等により研修を深めた。	A	教育要領で重要視されている「健康の領域」において研究を深めることができた。	園内研修の充実を図ることができるよう、情報提供や研修提案を行う。	A		
	幼稚園教職員研修の充実	預かり保育、3歳児教育、特別支援教育、運動遊び等幼児理解を深め、指導力を向上するための研修を各園で行った。	A	幼稚園教諭としての専門性を高め、保育の充実につながった。	内容を精選しながら研修を継続していく。	A		
	幼稚園における3歳児教育の全園実施	新たに高屋・木之子・西江原幼稚園で3歳児教育を開始し、市内全園が3年教育となった。	A	学年別部会を実施。発達段階に応じた援助や教育の在り方について研修を深めることができた。	今後は、3歳児教育のみならず、幼児教育の推進を図り、全職員が保護者や地域に発信できるよう教育力、発信力を高める研修を行う。	A		
	新 保幼小接続事業	各小学校区で接続カリキュラムの作成を行い、10月よりアプローチャカリキュラムを試行した。	A	各小学校区で保幼小接続推進会議を行い、円滑な接続を図ることができた。	新教育要領に示されている、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を用いながら啓発や研修を進めていく。	B	推進会議開催にとどまっており、アプローチャカリキュラムの具体的成果を見ることができない。	
	(2) 確かな学力と個の可能性を伸ばす教育の推進	いばらっ子イノベーション35推進事業（市費講師配置による35人以下学級編制）西江原小	市費講師1名配置による35人学級編制を行った。西江原小学校 6年生に配置。	A	落ち着いた学級づくりときめ細やかな学習指導が可能となり、効果的であった。	児童一人ひとりとしっかり向き合い、落ち着いた学級づくりと、きめ細かい学習指導に努める。	A	
		いばらっ子伸びる学力支援事業（非常勤講師8人配置、小1支援員配置）	少人数指導充実のための市費非常勤講師配置 算数・数学科、国語科、英語科等において習熟度別指導を実施し、基礎的・基本的な内容の定着を図った。高屋小・西江原小・芳井小及び全中学校に配置。小1支援員は西江原小1名、出部小へ2名を配置。	A	適切な配置と効果的な活用ができ、基礎的・基本的な内容の定着を図ることができた。	少人数指導により、算数・数学科、国語科、英語科等において、基礎的・基本的な内容の定着を図る。	A	
		新 小規模校学習活動支援事業	小規模小学校から大規模中学校への進学に伴う「中1ギャップ」の解消・緩和を図るため、中学進学前に交流学習を実施。平成30年1月24～26日の3日間、野上小6年生児童4名と青野小6年生児童8名が西江原小学校へ向向き、西江原小6年生児童39名とともに学習を行った。	A	1・2学期には「いばらいきいき子どもプラン」に伴う交流クラブを実施しており、3学期に通常の授業と一緒に体験することにより、中学進学への意識向上と人間関係づくりに一層よい影響を与えている。	市教委先導の取組から、該当校での自主的な運営が可能となってきている。今後も活動や連携の充実に向けてサポートを続けたい。	A	
		新 英語の教科化に対応した研修	「井原市イングリッシュキャンプ」を『井原市外国語（英語）指導力向上実践研修会』として位置づけ、事前研修でALTと一緒に企画したアクティビティを、キャンプ当日にオールイングリッシュで自ら試行することで、授業で活かせる実践力を伸ばした。市内の教職員、ALTあわせて14名が参加。	A	自ら考えたアクティビティを実際に参加生徒へオールイングリッシュで指導することで、より実践的な研修の場となり、教職員の英語力及び意識向上への契機となった。	英語担当の教員に限らず多くの先生方の参加を促し、教職員の英語指導力の向上が図れるよう引き続き働きかけていきたい。	A	
		新 道徳の教科化に対応した研修	岡山県総合研究センター主催の道徳の教科化に関する研修に各校1名を派遣した。	A	研修後、校内での伝達講習等で、教科化に問題なく対応することができた。	各校における研修を啓発し、教員の資質向上を図っていく。	A	
		全国学力・学習状況調査の実施	新学習指導要領で示されている学力（基礎基本・思考力判断力表現力等）育成を図るための検査を実施した。	A	児童生徒の学力と課題について把握し、対応をすすめることができた。	小中学校ともに取組の成果が感じられるが、中学校の学力については課題が見られるので、更なる取組の充実を図りたい。	A	
学力向上対策事業		児童生徒の現状と課題、各校の取組を共有し、市全体で学力向上に向けた意識と実践の高揚を図るため、学力向上対策研修会を年2回実施した。	A	各校において児童生徒の実態に応じた取組が進み、学力向上に向けた契機となった。	各調査結果の分析を受けた各校の取組もPDCAサイクルを意識した流れが定着しており、今後も研修会を通して好事例の発信を続けたい。	A		
英語授業の充実（ALT6人の活用）		市内幼稚園・小・中・高等学校へALT6人を派遣。小学校外国語活動、国際理解教育、外国語授業の助手として充実した働きをしている。1日の授業は3時間から5時間。1日7時間勤務。市内小学校では全校で年間35時間外国語活動を行った。学校では活用法の工夫をすすめている。	A	ALTは充実した働きをしている。学校でも効果的に活用しており、外国語教育の充実を図ることができた。	ALTの雇用（採用）形態を変更しており、新体制でもALTを活用した英語授業の充実が図れるよう派遣会社等との連携を続けたい。	A		
デジタル教科書の活用推進	必要に応じて写真、動画、音声等による教材提示ができるため、授業において活用している。児童生徒の学習意欲向上、基礎基本の定着のために有効である。	B	小学校では多く活用されているが、中学校では教科領域や授業形態によって活用状況の差が大きい。	デジタル教科書活用研修等を通じて、授業におけるICTの効果的な活用について啓発・紹介していく。	B			

施策	事業	内容	自己評価		課題解決に向けた取組、展望等	第三者評価	
(3) 高校教育の充実	放課後学習サポート事業	全小中学校に支援員を配置し、放課後に補充的な学習等を実施することで、学習内容の確実な定着を図り、児童生徒の学力向上を図った。	A	地域の方々の協力を得て、すべての小中学校で取り組むことができ、児童生徒の学力向上に成果があった。	各校の実態に合わせた取組が引き続き継続できるようサポートを続けたい。	A	
	地域土曜学習サポート事業 (13小学校)	公民館等で、地域の教員OB等の人材を活用して、土曜日学習を実施し、児童の学力向上を図るとともに、地域の教育力の向上及び学校と地域との連携を深めた。参加児童数は延べ2,705人であった。	A	地域の方々の協力を得て、すべての小学校区で取り組むことができ、児童の学力向上に成果があった。	各地区の実態に合わせた取組が引き続き継続できるようサポートを続けたい。	A	
	片山科学賞基金運営事業	片山科学子ども教室を、芳井生涯学習センターで8月9日に開催した。参加人数は289人であった。科学する心の育成に資するため、小・中学校の児童生徒の科学研究・発明工夫を表彰した。表彰された作品は「科学する心」という研究収録にまとめた。出品数は、科学研究36点、発明工夫25点であった。	A	片山科学賞は30回、片山科学子ども教室は15回を数え、科学する心の育成に寄与している。		A	
	イングリッシュキャンプの開催	A L Tと連携し、様々な活動を通して「生きた英語」を学べる1泊2日のオールイングリッシュキャンプを実施。市内の中学生16名、A L T 5名、英語担当教職員等9名が参加した。	A	新たに教職員研修を兼ねる形で実施することで内容の充実を図った。参加生徒数も増え、生徒及び教職員の英語力向上への契機となった。		A	
	基礎学力の充実	入学当初の学習ガイダンスや家庭学習時間調査を実施し、学習方法を理解させ、家庭での学習習慣を定着させている。習熟度別・少人数での授業・複数の教員での対応など、生徒一人ひとりに「分かる授業」が実感できるよう工夫と実践を繰り返している。	A	学習方法を理解することから始まり、基礎学力を充実させ、進路保障に繋げている。		A	
	キャリア教育の充実	4年間を見通した体系的な指導計画を立て、職業体験学習・インターンシップ・事業所見学・進路講演会など、毎月進路行事を実施し、自分にあった進路の早期決定を促した。どの行事も事前学習をして臨み、体験的行事では発表会なども実施し、学習の深化も図っている。	A	4年間の集大成として、今年度も引き続き希望する進路を100%実現することができた。		A	
	各種検定・資格の取得推進	多くの生徒が様々な検定に挑戦し、資格を取得している。漢字能力検定では2級2人、準2級4人、3級11人、4級1人が合格、その他食物調理技術検定3級4人、4級が17人、パソコンスピード認定試験2級2人、5級1人が合格する等多くの資格を取得している。	A	様々な検定に挑戦し、資格を目指すことで学習意欲の向上が見られる。		A	
(4) 特別支援教育の推進	主権者教育の推進	政治に携わる人から直接話を聞くことで主権者としての意識を高め、主体的に政治に関わる姿勢を育てることを目的として、井原市議会議員を招いての座談会を実施した。座談会では、生徒から市議に一生懸命質問する光景も見られ、市議にはこれらの質問に丁寧に回答をしていただいた。	A	アンケートで「選挙に必ず行く・たぶん行く」と回答した生徒の割合が座談会の実施前後で大きな変化があり、主権者としての意識の高揚につながった。(実施前53%→実施後78%)		A	
	学習支援員の配置と活用 (30人)	原則として通常学級に在籍する特別支援の必要な児童生徒の支援を行った。6時間×200日 30人(高小2、大小3、稲小1、県小1、木小2、荏小1、西小2、野小1、青小1、井小2、出小3、美小2、芳小2、高中1、木中2、井中2、美中1、芳中1)	A	特別支援の必要な児童・生徒の支援を中心に、落ち着いた学校づくりに果たした役割・成果は大きい。	特別支援の必要な児童・生徒数は増加傾向であり、今後支援員の適正配置や支援内容等について研究していく。	A	
	巡回相談員の配置と活用 (1人)	巡回相談員1名を配置し、保育園、幼稚園・小学校・中学校への巡回相談を実施した。	A	専門家を学校へ派遣することによって、適切な指導助言を受け、特別支援教育に関する指導の改善を行うことができた。		A	
	新 特別支援教育ブロックリーダーの活用	発達障害等のある児童生徒が通常学級で安心して生活し、落ち着いて学習に取り組むことができるよう特別支援教育ブロックリーダーが井原中学校区の学校を巡回して指導等を行った。また、教職員の指導力向上と指導体制の充実を図るため、特別支援教育ブロックリーダーを(独)国立特別支援総合研究所の研修へ参加させた。(H29は育成、H30から活用)	A	特別支援教育ブロックリーダーに、(独)国立特別支援総合研究所における内地留学での研修を実施することができた。またH30の活用計画を作成することができた。		A	
(5) 教師力の向上	若手・中堅教員研修の充実	教員の指導力向上を図るため、近隣市町と協力し研修会を開催した。若手研修を7月26日に矢掛町で開催し34人の参加があった。中堅研修会を8月18日に井原市で行い、7人が参加した。	A	市内からも多数の教員が参加し、指導力向上及びネットワークづくりにも効果的であった。	近隣市町合同の研修会にとどまらず、井原市独自の研修会を実施して、一層の指導力向上やネットワークづくりを進めたい。	A	
	研究指定校による研究発表会 (木之子小・野上小・井原小)	木之子小学校、野上小学校、井原小学校において、研究成果を発表した。	A	各校の児童の実態に基づき、学力向上や小学校学習指導要領の指導内容を踏まえた学習指導法等についての研究を進めることができた。	研究指定校による研究発表会を実施することで、学習指導法等の研究・研修を深め、教職員の資質の向上を図る。	A	
	井原市学校教育研究会研修事業の実施	各班において夏季休業中の班会等を開催した。	A	教職員の自主的な研修を推進することができた。	各校の横のつながりを強化し、井原市全体としての指導力向上を図る。	A	

施策	事業	内容	自己評価		課題解決に向けた取組、展望等	第三者評価	
	教育講演会の開催	「今日から使えるアンガーマネジメント ～子どもの笑顔は先生の笑顔から～」をテーマに、一般社団法人日本アンガーマネジメント協会 アンガーマネジメントファシリテーター 稲田尚久 氏を講師に8月24日に教育講演会を実施した。	A	日常生活における「アンガーマネジメント」について、教育現場の実態を踏まえながら分かりやすくご講演をいただき、教員として、一人の大人としてアンガーマネジメントの重要性と方法について理解を深めることができた。	行事の精選、働き方改革の観点から平成30年度から廃止した。	A	
	定期及び要請による学校訪問	定期の学校訪問：5月～7月にかけて実施。諸帳簿の検閲、授業視察等を含め、教職員と協議・懇談を行い、教育実践の向上に努めた。 要請訪問：随時 研究授業を中心に、指導方法の研究、工夫改善を図った。各校園 1回～2回実施	A	学校の実態を把握し、授業力向上、指導方法工夫改善、服務関係について具体的な指導助言を行うことができた。		A	
	ICT支援員の配置と活用（2人）	学校でのICT活用を推進するため、授業や研修等において教育のICT活用をサポートする「ICT支援員」を配置し、教育活動の充実を図った。 2人配置 学校HPの更新、教材作成補助、ネットワーク調整等を行った。	A	ICT活用のための有効な支援ができた。		A	
	教師業務アシスタントの配置（3人） 井原小、出部小、井原中	井原小学校・出部小学校・井原中学校に教師業務アシスタントを配置し、指導資料の印刷や、ICT機器の準備および片付けなどの「授業準備」や、調査統計作業や、データ入力作業、会議資料や議事録の作成などの、「教員が行う事務作業の支援」さらに、「教育活動に係る事務補助」「課外活動に係る事務補助」を行う。	A	教師業務アシスタントの配置により、教師が子どもと向き合う時間を確保でき、現在の教育課題である「学力向上」や、問題行動を減少させたりする取り組みを進めることができた。	教師業務アシスタントの配置により、教師が子どもと向き合う時間を確保、学力向上や、問題行動の未然防止に努める。	A	
	新 教育ネットワークの活用促進	教育ネットワーク（desknetsNE0）の各種機能を使い、学校間の情報共有を図った。また、タイムカード機能を使った勤務時間管理を行った。	A	各種機能を使って、連絡事項のスムーズな伝達や教材の情報共有等を図ることができた。	今後もさらに、教材や各種文書の共有化をすすめていく。また、勤務実態の分析を進めていく。	A	勤務時間の実態を把握し適正化を図ること。必要に応じ、事業のスクラップ・アンド・ビルドを検討すること。
	新 校務支援ソフトの活用促進	校務支援ソフトの運用や活用について、教務担当者会で情報交換を行い、出された意見や質問事項について、教育総務課とともにソフト制作会社と連携し、運用や活用について解決を図った。	A	各機関と連携し、運用・活用についての課題解決を図ることができた。	運用について、ソフト会社と連携し改善できることは改善を図っていく。	A	
2. 豊かな心の育成 (1) 心の教育の推進	ふるさと井原魅力発見事業 (小6田中美術館見学等、小4宿泊体験)	児童生徒を対象に、田中美術館見学、文化財センターでの体験学習、星の郷ふれあいセンターでの宿泊研修を実施し、ふるさと井原の魅力を発見し、自信と誇りを持たせるとともに、豊かな体験を通じた道徳性の育成を図った。 田中美術館・文化財センター：13小学校の小6 星の郷ふれあいセンター：11小学校の小4	A	各校工夫や協力をして、豊かな体験活動を行った。活動前には目的について事前指導を行い、活動後は振り返りを行い自分たちの大きな成長を確認できた。小4の宿泊は1校増え、11校の実施となった。		A	
	スポーツふれあい交流事業 「夢の教室」（小5）	全小学校の5年生を対象に夢をかなえるために努力した日本のトップアスリートを「夢先生」として派遣し、夢をもつことの素晴らしさやそれに向かって努力することの大切さ等を学ばせる。（野上・青野小は隔年実施：H29年度は実施なし）	A	児童は本物のトップアスリートと出会うことで、夢をもつことの素晴らしさやそれに向かって努力することの大切さを学べた。		A	
	地域教材を活用した道徳教育の推進	郷土の偉人等を題材とした教材を用い、児童生徒の実態に合わせ工夫して授業に活用するよう指導した。	B	地域の実態に応じたもので、各学校の取り組みに差がある。	道徳の教科化に伴い、今ある地域教材を活用するための研修を進めていくとともに、新たな地域教材の開発に努める。	B	
	学校司書の配置と読書活動の推進	学校図書館司書9人配置し、自主研修活動を実施した。 内容：図書管理、推薦図書の紹介方法等。児童生徒への広報活動、朝読書の取組の充実、読書の時間の確保、家庭読書の充実等を各学校に呼びかけた。	A	司書同士の情報交換を行うことができ、図書館教育の充実を図ることができた。		A	
	人権教育担当者研修会の開催	人権教育担当者会を11月28日に開催し、啓発ビデオの視聴と各校の人権教育推進状況等に関する情報交換を行った。	A	今後の人権教育推進に向けて活用できる情報を提供することで、取組充実の契機とすることができた。	新たな人権課題なども積極的に学ぶ場を設定し、各校における人権教育の充実を図りたい。	A	
	情報モラルに関する指導の充実	県総合教育センター、県義務教育課等が作成した資料等を配布し、指導を徹底した。	A	生徒指導上の問題に、LINE等のトラブルが関係し、対策や対応が必要となる中、資料等を参考に指導の徹底を図ることができた。	児童生徒のみならず、保護者や地域にも協力を得ていく。	A	
(2) 生徒指導の充実	新 落ち着いた学校づくり支援事業 (hyper-QU検査)	年2回、児童生徒を対象に、学級内での子ども同士の人間関係についてアンケート調査を実施し、いじめや不登校の早期発見及び未然防止を図るとともに、学級崩壊を予防し、よりよい学級集団づくりを推進した。	A	いじめや不登校、学級崩壊の予防等よりよい教育実践のために活用し、よりよい学級づくりに取り組むことができた。		A	
	新 子どもと向き合う時間を創出するための研修	国や県の動向を踏まえ、各種通知や資料を活用し、教員の働き方改革を進めた。校園長会で、各校（園）の改善策を共有することで、子どもと向き合う時間を創出するための研修を行った。	B	各校の改善策を共有することで、子どもと向き合う時間の創出へのアイデアを生み出した。	教職員の、働き方に対する意識改革を継続的にすすめ、子どもと向き合う時間を創出する工夫を市教委として研究していく。	A	働き方改革に関する研修会開催など、具体的取り組みを進めている点を評価する。

施策	事業	内容	自己評価		課題解決に向けた取組、展望等	第三者評価	
	ネットとスマホ利用改善の推進	スマホ・ネットに関する保護者向け啓発チラシを配布するなどし、保護者に対して意識の向上を図った。学校では、児童生徒の自主的なルールづくりを行い、家庭でのルールづくりも進めていく。	A	児童生徒にルールづくりの必要性について考えさせた。保護者向けの研修会を各校園で行い、利用時間のルールづくりの啓発を行うことができた。	今後も保護者との連携を密にしてい	A	
	不登校児童生徒の適応指導対策事業 (スクールカウンセラー配置事業) (スクールサポーター配置事業(中学校)) (訪問カウンセリング事業) (問題行動対策コーディネーター配置事業) (登校支援員配置事業) (不登校対策実践研究事業)	・適応指導教室(大山塾)において、不登校児童生徒に適応指導を行った。中学生18人が通室した。 ・県の事業により、スクールカウンセラーを全小中学校に配置した。 ・スクールサポーター3名を配置し、中学校5校の生徒の教育相談、適応指導教室との連絡調整等に当たった。 ・訪問カウンセラー1名を配置し、学校や不登校傾向をもつと思われる児童生徒の家庭等を定期的に訪問し、指導を行い、不登校の未然防止に努めた。 ・問題行動対策コーディネーター1名を配置し、学校や適応指導教室、その他関係機関との連携強化を図り、不登校児童生徒の自立を支援した。 ・登校支援員を配置し、不登校傾向のある児童の登校支援や学習支援、保護者等に対する相談支援を、教職員と協力しながら行った。(高屋小、西江原小、井原小、出部小、美星小)	B	不登校生徒2名の学校復帰を図ることができたが、出現率はわずかに上昇した。 (H29出現率:小学校0.70、中学校2.94) (H28出現率:小学校0.58、中学校2.87)	大山塾を中心に適応指導を着実に進めるとともに、他の不登校対策事業にも鋭意取り組む。	B	教育相談室との連携強化に努めること。
	いじめ問題対策連絡協議会の開催	いじめから子どもを守り健全な育成を図るため、学校における有効な取組の実践と学校、家庭、地域、関係機関や団体等との連携を強化し、いじめ問題の未然防止及び早期発見・解決を行うことを目的に、井原市いじめ問題対策連絡協議会を設置し、会議を開催した。	A	関係機関の取組等の情報共有及び連携した施策の実施や、意見交換、いじめ防止に向けた施策の実施状況等の取りまとめを行い、いじめ問題の解決への効果的な方策の共有ができた。		A	
3. 健やかな体の育成 (1) 基礎体力・運動能力の向上	体力づくり推進事業	小中学校全校で実施。その結果を各校で分析し、課題を明らかにし、体力向上の取り組みを行った。	A	業間運動、県主催のチャレンジランキングへの参加等、各校で自主的な取組を行い、小学校の新体力テストでは、全ての項目で県の平均値を上回った。		A	
	健康づくり優良児童生徒表彰	健康づくりに努力している児童生徒の表彰を行い、健康に対する関心と意欲を高めた。学校保健会において表彰を行った。小学校12人、中学校2人計14人を表彰。	A	児童生徒の健康に対する関心と意欲が見られるようになった。		A	
	いばらっ子生活リズム向上プロジェクト	市内の保幼小中高を対象に実施した生活調査結果のフィードバック、生活リズム向上に関する各校園の年間取組計画の作成支援、教職員・保護者等を対象にした研修会の開催支援、啓発資料の配付等を通して、各校園や家庭での生活習慣改善を促した。主テーマを「よく動く」と設定し、環太平洋大学中尾教授との連携を進め、各校園での取り組みを支援した。	A	生活習慣に対する関心が高まり、「よく動く」子どもの育成に向けた各校園での実践が広がり、定着が見られるようになった。	取組を継続することで、生活習慣の改善に向けた各校の自主的な活動を支援していきたい。	A	
	チャレンジランキングへの参加	市内幼小中高等学校へ参加の啓発を行い、3小学校が参加した。	B	効果はあったが、平成28年度は6小学校だったが、平成29年度は3小学校と参加校が減少した。	チャレンジランキングへの参加を、校園長会などを通じてさらに周知していく。	B	
	新 体力テスト表彰	市内小中学校を対象に実施。新体力テストの結果を昨年度の県の結果と比べ、上回った学校を表彰した。その中で、最も成績が良かった学校(小中各1校)を最優秀校、その他を優秀校とした。	A	児童生徒の運動能力・習慣等の改善の啓発となった。		A	
(2) 保健・安全教育の推進	防災教育の推進	学校の危機管理マニュアルや防災計画の確認とともに、定期的な避難訓練等の実施について指導した。	A	各校の実態に合わせた計画のもと、防災意識の高揚に効果があった。	今後も学校の危機管理マニュアルの見直しをすすめていく。	A	7月豪雨災害の検証に基づく見直しを検討すること。
	交通安全教育の充実	各校・園交通安全教育実施(年間2回程度実施)	B	幼児・児童・生徒の交通安全意識の向上が図れたものの、事故件数は平成28年8件から平成29年14件に増加した。	事故の原因を分析し、交通安全教育の充実につなげる。	B	
	防犯意識の高揚と啓発活動	各校・園防犯教育実施(年間1~2回実施)	A	幼児・児童・生徒の防犯意識の向上が図られた。		A	
	小児生活習慣病予防健診の実施(小4、中1)	小学校4年生284人、中学校1年生278人を対象に実施。	A	健診結果を生活改善につなげており、指導効果が認められる児童生徒が見受けられた。		A	
	薬物乱用防止教室等の推進	各校において、性教育・エイズ教育及び薬物乱用防止教室を実施した。	A	計画的に実施しており、定着化を進めることができた。	地域や関係機関との連携を図っていく。	A	

施策	事業	内容	自己評価		課題解決に向けた取組、展望等	第三者評価		
(3) 食育の推進	笑顔の食育参観日 (朝食パワーアップ事業)の実施 (全幼)	保健センターから栄養士が幼稚園に行き、食育指導と、調理実習から会食までを、園児と保護者を対象におこなった。全園1回の実施。	A	朝食をきちんと取ることの必要性について保護者に啓発できた。		A		
	栄養教諭による食育の推進	学校給食センターは栄養教諭1名・学校栄養職員1名の2名体制、美星調理場は栄養教諭1名体制で、積極的に学校園へ出向き、給食を活用した食に関する指導を行い、食育の推進を図った。	A	食に関する指導や学校保健委員会への参画、親子料理教室等を実施し、食育の推進を図ることができた。		A		
	学校給食における地産地消の推進	地元生産者団体との連携・調整を図った。 地場産物の利用を拡大するため、献立の工夫や研究、給食だより及び食育通信「スクールランチ」での地場産物の紹介を行った。	A	市内産を優先的に取り入れ、地場産物の活用に努め、地場産物使用率が上昇した。(平成28年度 42% ⇒平成29年度 54%)		A		
	学校給食における食物アレルギー対応 (食物アレルギー対応マニュアルの作成)	食物アレルギー調査を実施し、代替食・除去食を提供した。 アレルギー記載予定献立表の配付及び教育委員会ホームページでの掲載。 対応マニュアルについては、平成30年度中の策定に向け、調査・研究を進めた。	A	食物アレルギー事故防止の徹底を図り、事故はなかった。		A		
	食育担当者研修会の開催	栄養教諭による食育推進の研修会を開催し、各学校園の食に関する指導に係る全体計画のチェックや、学校での実践事例の発表を行った。	A	給食の実態や各学校園での食に関する指導の取組を共有することで、食育の推進を図ることができた。	今後も学校園の実態に応じた研修内容を検討していく。	A		
	食育講座の開催	井原給食センター及び美星調理場へ幼稚園を各1園ずつ招き、園児と保護者を対象にした「ふれあい給食」を開催し、調理場の見学や試食、食育指導をおこなった。	A	給食センター・幼稚園(給食主任・園児と保護者)・生産者の交流により、学校給食への理解が深まった。		A		
4. 学校・家庭・地域社会の連携 (1) 家庭や地域の教育力の向上	学校支援ボランティアの活用	各校において、放課後等の学習支援、各教科、道徳、総合的な学習の時間等における学習支援ボランティアを募集し、児童生徒の学習活動の支援を行った。	A	小中学校においては、それぞれの学校で積極的に活用でき、成果を上げることができた。		A		
	学校支援地域本部事業の推進	大江小、野上小、井原小、西江原小、県主小、木之子小、荏原小、美星中、芳井小・中において、学習支援、環境整備、学校行事の支援、子どもの安全確保などが地域住民によって行われた。	A	地域連携担当者と地域コーディネーターが連携し、地域住民による学校支援活動を行うことができ、他の地域のモデルとなっている。		A		
	(2) 開かれた学校づくりの推進	教育広報誌(ともなび)の発刊	10月、3月の2回発行した。発行部数各回6,000部。 全国学力・学習状況調査の結果や、新学習指導要領の内容などを紹介した。	A	本市の教育の在り方や現状、教育に関連したさまざまな情報を発信することができた。		A	
		開かれた学校づくり推進事業の実施	学校が家庭や地域社会と連携を図り、ともに子どもたちを育成するための事業を市内全小中学校及び市立高校で実施。 小学校では地域の人との交流学習や伝統文化の継承、中学校では地域に根ざしたボランティアや郷土学習、市立高校では駅前通りや、グリーンロード等のクリーン運動や井原幼稚園での実習のほか、学校を利用して小学生を対象としたカブトムシの飼育やタルト作りなどの講座を実施した。	A	学校・家庭・地域社会が連携し、地域教育や校外ボランティア活動等を実施し、子どもたちの「生きる力」を育成することができた。	新学習指導要領の主旨を活かし、各校における「地域とともにある学校づくり」に向けた取組が充実したものになるよう支援していきたい。	A	
		学校評価・学校評議員制度の積極的活用	幼・小・中・高で各学校の取り組みについて、学校評価を実施し、成果と課題を明らかにした。	A	幼・小・中・高で学校評価(自己評価、学校関係者評価)を実施し、成果や課題を把握することができた。		A	
		学校ホームページの充実	学校ホームページを開設し、積極的に学校の取組の紹介を行った。全ての小・中・高等学校で運用した。	A	すべての小・中・高等学校でホームページを立ち上げ、随時更新を行い、各種情報を適宜、提供することができた。		A	

平成29年度 教育委員会事務事業評価一覧表

教育行政重点施策体系

Ⅱ 心豊かでたくましい人を育てる生涯学習のまちづくり

施策	事業	内容	自己評価	課題解決に向けた取組、展望等	第三者評価	
1. 生涯学習社会に対応する学習機会の提供 (1) 家庭教育機能の向上	①子育て支援体制の整備					
	子育て支援課、健康医療課、図書館等との連携・協力	つどいの広場（子育て支援課）職員、健康医療課職員、図書館司書、読書ボランティア等で井原子ども読書推進実行委員会を構成。実行委員会を年2回開催し、子ども読書推進事業計画の説明、実施方法の意見交換、翌年度事業計画の作成及び事業実施後の検証・評価を行った。	A	学校、行政、ボランティアなど関係部署と連携・協力しながら事業を実施することができた。	A	
	井原子育てネットワーク協議会との連携	協議会を年2回開催。ライフステージに応じた課題別子育て講座、子育てサポーターの養成及び活動支援、次世代の親となる中・高校生のふれあい交流事業、親育ち応援講座について審議し、企画・運営を行った。あわせて情報交換を行った。	A	福祉部局・教育委員会が連携し、様々な場面で子育て支援事業を展開することができた。	A	
	子育てサポーターの養成及び活動支援（派遣託児）の実施	12/12、12/15の2回、子育てサポータースキルアップ講座を開講し、新規サポーターの養成と、サポーター登録者のスキルアップを行った。また、年間を通して井原保健センター事業での託児や子育て相談、井原市の主催・共催事業での託児のため、サポーターの派遣を行った。9/17には子育てイベントを開催する予定であったが悪天候のため、中止した。	B	新規サポーターの養成に加え、登録サポーターのスキルアップ講座を開催し、資質向上を図ることができたが、天候不良によるイベントの中止により、派遣託児の実績が減となった。	一部の事業が天候不良により中止となったが、次年度以降も継続する。	B
	②子育てに関する学習機会の拡充					
	子育て各期における課題別子育て講座の開催	5つのステージに分けて子育て講座を実施した。 ・妊娠期子育て講座 6回 参加者延べ 29人 ・幼児期子育て講座14回 参加者延べ 779人 ・学童期子育て講座10回 参加者延べ 618人 ・思春期子育て講座 4回 参加者延べ1,312人 ・その他の機会を活用した子育て講座年2回 参加者延べ41組87名	A	各校園やPTA、家庭教育学級等において、ライフステージの課題に応じた子育て講座になるよう、テーマや学習方法、講師の選定等を工夫して開催することができた。		A
	親育ち応援学習プログラムの活用と推進	親育ち応援前講座として、市内学校園や家庭教育学級で親育ち応援学習プログラムに沿ったワークショップ型学習会を12回実施。参加者延べ380人。また、親育ち応援学習プログラムファシリテーター養成講座を実施し、ファシリテーターの育成に努めた。参加者10人。	A	親同士が意見を交換できるワークショップ型学習会を通じて、不安の解消や子育てについて考える機会を提供できた。また、親育ち応援学習プログラムファシリテーター養成講座により、新たなファシリテーターの養成を図ることができた。		A
	子育て支援講演会の開催	中央家庭教育学級とくらしと人権講座、成人大学講座、井原市立視聴覚ライブラリーの4講座合同で子育ての講演会を実施。参加者142人	A	4講座の合同開催とすることで、幅広い世代の方に参加していただくとともに、子育てについての認識を深めていただくことができた。		A
	子育てイベントの実施	子育てサポーターが中心となり開催する、子育てイベント「第15回 ほっぶすてっぶおやこdeぼん」を9/17に開催予定であったが台風の接近により中止した。「うたってあそぼ！！」と題して子供といっしょに家族全員で楽しめるバンド「たいやひらめ店」の音楽に触れながら、参加者全員での読み聞かせ体験や親子体操の他、発達年齢に応じた遊びの提案や体験を実施する予定であった。	※	「共感」をテーマに、子ども同士、子どもと大人等参加者全員が心をひとつにして体験できるイベントの企画・運営・開催を子育てサポーターが行っているが、悪天候により中止となり、家族のふれあいの場を確保できなかった。	天候不良により中止となったが、次年度以降も継続する。	※
	家庭教育学級（中央・各地区）、幼児教育学級、婦人学級等の支援	中央家庭教育学級では、年間6回の学習会を行い、市内の親同士の連携と親睦を図るとともに、親として子どもの自立に向けた学習と学級運営に必要な知識・技術を高めるための学習を行った。また、各地区家庭教育学級・幼児教育学級・婦人学級の運営や学習会の内容についての助言を行った。	A	中央家庭教育学級では地域のリーダー養成や情報交換の場を提供するとともに、各地区では、地域の実情に合った学習会の計画が立てられ、伝統を守りつつ新しい内容も取り入れた学級運営がされた。		A

施 策	事 業	内 容	自 己 評 価	課題解決に向けた取組、展望等	第三者評価
(2) 社会教育における学習機会の提供	①子どもの学習生活環境の整備充実				
	学校・家庭・地域の連携協力推進事業の実施				
	放課後子ども教室事業の実施	子どもたちに安心・安全な居場所を設け、地域の方々の参画を得て、スポーツ・体験活動等を実施することによって、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを行った。 (芳井) よしいいきいきキッズクラブ (美星) 星の郷ふれあいサロン (県主) 県主かがやき教室 (荏原) 荏原まちづくり協議会子育てサポート部会 (大江) 大江キッズクラブ (木之子) きのこキッズくらぶ	各地区ともに、工夫をこらした様々な事業を実施し、子どもたちの健やかな育成を図ることができた。		
	学校支援地域本部事業の実施 (大江・野上・井原・西江原・県主・木之子・荏原小・美星中・芳井小中)	大江、野上、井原、西江原、県主、木之子、荏原の7小学校及び、美星中学校、芳井小・中学校の、9支援本部(10小中学校)での活動となっている。各本部と地域コーディネーターが連携し、学習支援、環境整備、学校行事の支援、子どもの安全確保などのボランティア活動を円滑に実施することができた。	A 各支援本部単位で、地域の特性に合ったさまざまな活動が実施され、効果的に事業を進めることができた。また、各本部からボランティアだよりが発行されるなど、学校だけではなく地域での情報共有も図られ、教育効果も上がっている。	A	
	学習支援「地域未来塾」を開講 (芳井中・美星中)	学校支援地域本部事業の芳井中及び美星中分の事業として、今年度も定期テスト前に基礎基本を確認したり、学力を定着させたりするために、学校と協力しながら実施できるようにした。また、3年生を対象に基礎学力の向上や入試対策としても実施した。	定期テスト前や入試試験対策としても実施されており、学力や学習意欲の向上につながった。		
	第3次子ども読書活動推進計画に基づく事業の推進 絵本づくり講座の実施 読み聞かせボランティアの養成 年齢別絵本ガイドの活用 ブックスタート事業・セカンドブック事業の実施	「親子で手作り絵本を作ろう！」を開催 参加者32人 読み聞かせボランティア講座 全4回開催 延べ112人参加。 年齢別絵本ガイドを530部作成し、児童会館やつどいの広場などの子育て関連公共施設に配付。 4か月児健康診査の際に絵本を送るブックスタート事業として、ブックスタートバックを205人に贈呈した。絵本を送ることで、絵本を介して心ふれあうひと時を持ち、読書のきっかけをつくれた。 また「ブックスタート」のフォローアップ事業として、2歳児健康診査の際に214人に読み聞かせを実施した。	A 親子で絵本づくりをすることで、子どもたちの絵本への興味を高めるとともに、創造力を養うことができた。また、読み聞かせボランティア講座を開催し、ボランティアの資質向上を図るとともに、交流の機会を提供することができた。ブックスタート事業・セカンドブック事業では、家庭での子どもの読書活動を広げる支援ができた。	A	
	いばらっ子生活リズム向上プロジェクト事業の実施	市内の保幼小中高を対象に実施した生活調査結果のフィードバック、生活リズム向上に関する各校園の年間取組計画の作成支援、教職員・保護者等を対象にした研修会の開催支援、啓発資料の配付等を通して、各校園や家庭での生活習慣改善を促した。主テーマを「よく動く」と設定し、環太平洋大学中尾教授との連携を進め、各校園での取り組みも支援した。	A 生活習慣に対する関心が高まり、「よく動く」子どもの育成に向けた、各校園での実践の広がり、定着が見られた。		
	子ども・若者育成事業として、みらいのひかりをつなげプロジェクト「夢源塾」を実施	井原市中央公民館事業として取り組み、平均して月1回以上集う機会を設けた。年間を通して、市内外のNPOや団体で活躍している方の講演やワークショップを行う学びの場として「夢源塾」を開催した。集いの場としては若者が気軽に話したり、市の行事への参加を計画したりする「夢源Makers会議」「You&Meカフェ」を開催した。また、地域の祭りや芳井宵あかり、まなびフェスタなどの行事に参加し、発表等の活躍の場を設けた。 (夢源メーカーズ：中学生 27人 ・ 夢源サポーターズ：大人 49人)	A 中学生の参加が増加したことにより、夢源サポーターズ(大人)の参加者も増え、先駆的な取り組みの話の聞いたり、サポーターとの交流、また、地域行事への参画をとおして、自己肯定感や地域への愛着心を高めるとともに、キャリア教育にもつながった。		
笑って健康元気アップ事業の実施 のびのび合宿の実施	8/23～24の1泊2日でのびのび合宿を実施し、小学4年生から6年生8人の参加があった。 合宿では、笑顔の食卓教室を実施し食育の啓発を行った。	A 参加した子ども達は、他校の仲間とふれあいながら、生活習慣や食育の大切さを学ぶことができた。			
学びのポイントラリーの推進	自治体、市民団体、NPO、民間企業などが実施する教育関連のプログラムを活用したポイントラリー。 登録プログラムをとりまとめたチラシを作成し、夏休み・冬休み前の年2回小中学校に配付。ポイントカードについては、夏休み前に小学校4年～6年・中学校全学年に配布した。ラリー完走者へは認定証を交付した。 (認定証交付実績：平成29年度 小学生8人・平成28年度 小学生 2人・平成27年度 小学生 2人) プログラムの増加を図るため公民館長会等で登録を呼びかけた。 (登録プログラム121件：昨年度より23件の増)	A 地区公民館やまちづくり協議会等に事業登録を呼びかけ、登録プログラム数の増加に努めた。 認定証の交付の際には、学校の全校朝礼等での表彰をお願いし、子どもたちの参加意欲を高める工夫を行い、認定証交付者の増加につながった。			

施策	事業	内容	自己評価	課題解決に向けた取組、展望等	第三者評価
	子ども情報紙「でんしょぼと」の発行	井原に関連する施設や歴史等に関する情報紙を年3回発行した。各回6,000部作成し、市内各保育園・幼稚園・小学校・中学校の全ての園児・児童・生徒へ配付した。	A 編集を工夫して情報発信することにより、市内の子どもたちに興味を持って読んでもらうことができた。		A
	ブックスタート事業の実施	4か月児健康診査の際に絵本を送り、絵本を介して心ふれあうひと時を持ち、読書のきっかけをつくっており、205人に贈呈した。ブックスタートバックの内容は、絵本2冊・イラストアドバイス集・絵本リストであるが、配布にあたっては、ボランティア（参加ボランティア延べ人数69人）に協力をいただいている。	A 絵本を通じて赤ちゃんの読書のきっかけづくり、赤ちゃんと保護者との会話のきっかけづくりができた。		A
	セカンドブック事業の実施	「ブックスタート」のフォローアップ事業として、ブックスタートで始まった絵本との関わりをさらに継続していくことを目的としている。ボランティア（参加ボランティア延べ人数56人）に協力をいただき、2歳児健康診査の際に214人に読み聞かせを実施した。	A 子どもと保護者が一緒に絵本を開く時間の楽しさを今一度再確認してもらい、家庭での子どもの読書活動をさらに広げる支援ができた。		A
	②青少年の健全育成				
	井原市連合少年団協議会の活動支援 少年団等指導者養成講座・ジュニアリーダー養成講座、少年レクリエーション大会の開催	6/17～18に、少年団等指導者養成講座（参加者 27人）およびジュニアリーダー養成講座（参加者73人）を開催し、野外炊事やロープワーク等の講座を実施した。 11/11に、荏原小学校とその周辺で、井原市少年レクリエーション大会を開催した。 （参加数 33チーム、365人 参加率365人/1854人≒19.69%） （参考：平成28年度 35チーム、379人 参加率379人/1,956人≒19.38%）	A 子どもたちに野外活動を通じた体験活動の場を提供するとともに、単位団の指導者の育成も図られ、各地区で行うキャンプ行事においても役立つ内容であった。	参加人数はやや減少しているものの、市全体の児童数に占める参加者の割合（参加率）は微増となった。	A 少年団等での活動は子どもたちの健全育成を図るうえで大切である。少子化の進展の中で、今後の事業のあり方を検討すること。
	美星っ子づくり協議会の活動支援	星の子読書フェスティバル （5/20 絵本の読み聞かせ、語り、リサイクル本ほか、260人参加） 美星っ子夢フェスティバル （8/5 美星小・中学校の児童生徒による手作りのゲームコーナー、美星町自治公民館によるそうめん流し、美星小・中PTAによるカレーライス、400人参加） 星の郷とっつぁんクラブ （8/18～19 夢が原体験キャンプとそば植え体験、11/11 そば収穫体験、12/9 そば打ち体験、12家族 39人登録）	A 各事業を通じて、子どもたちの活動を大人が積極的にサポートすることにより、様々な体験ができ、子どもたちの健全育成に貢献することができた。		A
	友好親善都市児童交流事業（魚津市・大田原市）の実施	【魚津市から来井】8/5～7 田中美術館、夏まつり、鷲羽山ハイランド、瀬戸大橋・与島、美星天文台見学など 参加児童：井原20人、魚津20人 【大田原市へ訪問】8/4～6 与一伝承館、天文館、華厳の滝、日光東照宮、日光江戸村、日光カステラ本舗、自然観察館、なががわ水遊園の見学や与一まつり参加など 参加児童：井原20人、大田原20人	A 子どもたちの交流により、親睦と青少年の健全育成を図るとともに、両市の友好を深めることができた。		A
	新成人の主体的な取り組みによる成人式の実施	成人式実行委員12人により実行委員会を3回開催し、成人式の役割分担（司会・記念品受領・市民憲章朗唱・誓いの言葉）や記念行事等の企画を行った。特に、本年度は、記念行事として、恩師からのビデオレターの上映を行った。 （対象者：434人 出席者：349人）	A 新成人が主体的に企画運営にあたることで、厳粛な中にも温かく、思い出に残る成人式を実施することができた。		A
	地区青少年を育てる会等の活動支援	補助金を交付し活動を支援している。60千円×13地区 各地域で子どもたちの登下校時の見守り活動（青色防犯パトロール等）や地域の人材や特色を生かした体験の場（とんど、もちつき、しめ縄づくり、高齢者とのふれあい等）を提供していただいている。	A 活動促進のための有効な助成となった。		A
	夏のボランティア体験事業の実施	市内の中高生を対象に、7月から8月にかけてボランティア体験を実施。実体験を通してボランティア活動への理解を深めてもらうことを目的としている。（延べ346人参加）	A ボランティアに参加する時の心構えを学ぶとともに、子どもや高齢者・障害のある人との交流を通じて、社会福祉への理解を深める機会の提供をすることができた。		A
	青少年育成センター事業、教育相談室事業の推進	青少年育成センターの事業では、井原市内の青少年の健全育成に携わる各種団体・機関との連絡調整を行い、明るい家庭づくり作文、青少年健全育成表彰、街頭啓発などの健全育成事業を実施した。また、年間を通して、市内の補導活動、バス・列車を使った近隣市町村まで往復する広域補導を行った。教育相談室事業としては、随時相談を受け付けており、さらに毎月第3金曜日を特別教育相談日とし、より専門的な相談ができる機会をもっている。	A 各種団体・機関等との連携も図られ、各種事業を通して、市民への意識啓発や相談事業等、青少年の健全育成を図ることができた。		A
	③成人期の生涯学習				
	成人大学講座の開設	年間4講座を実施（うち2講座は、環境課・企画課との共同開催）。 合計延べ参加者188人	A 講演内容の充実や他講座との共同開催など、開催内容を工夫することにより、幅広い年代の方に様々な学習の場を提供することができた。		A

施策	事業	内容	自己評価	課題解決に向けた取組、展望等	第三者評価	
(3) 多様な学習課題への対応と学習機会の充実	④高齢社会と学習活動		A	可能な限り要望を取り入れた講座内容とし、多くの方に参加いただくことができた。また、「笑いの講座」も各学級（むつみ会を除く）の中で1回実施することができた。	A	
	高齢者学級の開催 (寿大学院、芳寿大学、長寿学級むつみ会)	寿大学院 10回 延べ参加者2,093人 芳寿大学 9回 延べ参加者1,150人 長寿学級 8回 延べ参加者1,031人 むつみ会 12回 延べ参加者 212人				
	(3) 多様な学習課題への対応と学習機会の充実	①情報化に対応した情報教育の基盤整備		A	SNSの基本的使い方など、新たなテーマの講座を開催することにより、魅力ある講座作りができた。	A
		パソコン講座の開催	全5講座（ネット・SNS入門、Excel基本、Excel中級、デジタル写真入門、パワーポイント初級）を実施。受講申込者数は延べ34人。（1講座平均7人・定員17人）1講座は、1回2時間を4回行う。			
		②人権が尊重されるまちづくりの推進		A	各回のテーマが重複しないよう工夫し、様々なテーマによる学習機会の提供を図ることができた。	A
		くらしと人権講座の開設	8月から1月までに7講座を開設した。会場はアクティブライフ井原4回、芳井生涯学習センター1回、井原市ふれあいセンター1回、現地研修（悲眼院）1回。受講者延べ人数1,098人			
		諸学級、諸団体等での人権学習・人権啓発活動の推進 (PTA、地区、企業等)	市内全ての学校園でPTAを中心として企画された人権教育研修会が年2回程度行われている。公民館などでも年間の計画に沿って人権教育研修が行われており、地区公民館へ人権に関する出前講座を実施した。	A	市内学校園のPTA、公民館及び各種学級で人権教育に係る研修会が開催されるとともに、出前講座を活用した人権講座も企業や各団体が開催され、効果的な人権啓発が行うことができた。	A
		市長部局との連携による人権教育、啓発活動、男女共同参画社会づくりの推進	「人権が尊重されるまちのつどい」を市長部局（協働推進課）と連携して開催した。 「2017男女共同参画地域フォーラムinいばら」を市長部局（企画課）と連携して開催した。	A	企画・運営から関係部局と連携して開催することができ、多くの方々に研修をしてもらうことができた。	A
		井原市ふれあいセンターでの交流活動等の推進	成人教養講座5、小学生教養講座2、ふれあい交流活動及びまつり行事11、合計18の主催事業を実施した。支援事業としては、各種サークル活動や子ども会活動に加えて、地域の団体の活動も行われた。年間を通して、市民の交流の場となっている。	A	主催事業、支援事業ともに計画的、積極的に行われ、近隣の人々の交流の場ともなっている。また、新たなサークル活動も行われるなど、活発な活動が図られた。	A
		③天文講座の開催		A	天文台職員による3回の天文に関する話のほか、美星スペースガードセンター観測員による、昔と現代の観測を結びつけることによる発見についても学ぶことができた。参加者数も37名の増加を図ることができた。	A
天文講座の開催		一般市民向け「いばら天文講座」を、11月、12月、2月、3月に実施した。（延べ参加者数 102人）				
(4) 芸術・文化活動の振興		①交流を生み出す芸術・文化の振興		A	実行委員会において講師や出演者の選定を行い、市民ニーズに合った質の高い講演会やコンサートを開催することができた。	A
	文化講演会、コンサートの開催	文化講演会 11/18 福澤 朗 来場者396人 コンサート 1/12 東儀秀樹 来場者496人				
(4) 芸術・文化活動の振興	優秀映画鑑賞会・子ども映画会の実施	優秀映画鑑賞会 5回（1会場）5作品 延べ832人（アクトライブ井原） 子ども映画会 2回（1会場）2作品 延べ230人（アクトライブ井原）	A	上映作品に関しては、前年度アンケートや話題作を参考に厳選したこともあり、来場数は格段に増加した。子ども映画会では、成人大学講座との合同開催という新しい試みもあり、集客数の増加につながった。	A	
	(5) 学習ニーズの把握	①学習ニーズや意識の把握		A	A	
各種事業等開催時のアンケート調査の実施	事業実施の都度、簡易アンケートを実施し今後の事業展開の目安としている。	P C D Aサイクルを活用し事業を進めることで、ニーズに合った内容につなげることができた。				

施策	事業	内容	自己評価	課題解決に向けた取組、展望等	第三者評価
(6) 総合的な啓発事業の開催	①学習意欲を高揚するイベント等の開催		A	各種媒体を通じたイベントの周知や各種団体への呼掛けを行うほか、イベント内容の一層の充実を図り、来場者の増加を図る。	A
	生涯学習の集い、文化祭等の開催	1/27、28の2日間、生涯学習の集い「まなびフェスタinいばら」を開催した。大勢の参加がある恒例の行事となっており、生涯学習推進の一助となっている。また、地区公民館において、文化祭等を開催し、作品展示や舞台発表等を行った。			
(7) 意識を高める啓発活動の推進	①CATVや広報誌等による啓発		A	各種媒体を通じて、タイムリーな情報発信を行うことができた。また、生涯学習カレンダーでは、生涯学習関連以外の行事予定も掲載し利便性の向上を図ることができた。	A
	生涯学習に関する啓発番組や記事の掲載	各種の講座やイベントについて、啓発活動の一環として、市広報・CATV・お知らせくん・チラシ等を活用し、適時広報を行った。また、生涯学習関連の情報を掲載した「生涯学習カレンダー」の運用に努めた。			
2. 生涯学習環境の整備と充実 (1) 生涯学習関連施設の整備と機能の充実	①生涯学習関連施設の整備と機能の充実		B	引き続き施設の維持管理に努めるとともに、学校や天文台等との連携、美星町の魅力発信により、市内のみならず、市外からの利用者の増加も図っていく。	B
	星の郷ふれあいセンターの施設整備と利用促進	体育館の窓ガラスの取替修繕など施設整備を行い、施設の安全性を向上させ、利用の促進を図った。 (H29施設利用者8,587人←H28施設利用者9,372人)			
	アクティブライフ井原の施設・備品整備と利用促進	非常用照明設備や照明器具の安定器取替修繕など行うとともに、カーテンの取替により利用環境の充実に努めた。			
	芳井生涯学習センターの施設・備品整備と利用促進	エレベーターや空調機器の修繕を行うとともに、音響機器の一部更新を行い、生涯学習の場、交流の場としての利用促進を図った。			
	井原市ふれあいセンターの整備と利用促進	ふれあい七夕まつりやふれあいセンターまつり、各講座などの主催事業に加え、人権教育講演会、子ども会等の行事、各種サークル活動でも活用されている。年3回のセンターだよりの発行により、活用の様子を広報した。 (H29延べ利用者数 6,540人←H28実績 6,962人)			
	美星天文台・星空公園の整備と利用促進				
	美星天文台の活用による天文の普及・啓発 101cm望遠鏡の一般公開と各種イベントの実施	101cm望遠鏡一般公開や立体映像上映システム(4D2U)による入館者数は、昼間3,019人、夜間13,616人、合計16,635人で、最高来館者数を記録した27年度以降16,000人台を維持している。 イベント参加者は「織姫星、彦星を見る会」が曇天で176人、「ふたご座流星群を見る会」も曇天で103人とどまった。「お月見会」と「月食を見る会」は悪天候により中止した。工作教室は5月が7組、8月が7組で、前年度よりやや減少した。8月の「ペルセウス座流星群を見る会」は月の条件が悪く実施できなかった。 101cm望遠鏡占有利用については、34件の利用申請があり前年度並みであったが、観測機器の不具合による未実施が3件あった。			
	星と宇宙の立体映像上映システムの活用と館内展示の検討	星と宇宙の立体映像上映システム(4D2U)の鑑賞者数は、昼間2,107人、夜間1,178人、計3,285人で昨年とほぼ同じであった。昼間の入館者の70%が4D2Uを鑑賞した。			
	市内小・中学校等体験学習の支援(ふるさと井原魅力発見事業)出前観望会等による啓発	「ふるさと井原魅力発見事業」等による市内小学校13校の観望の受け入れ。 美星中学校の郷土学習を受け入れ。社会見学は市内については幼稚園が1園、小学校が1校、市外については保育園1、小学校5校、中学校1校受け入れ。 市内の出前観望会を3回(うち1回は美星天文台主催・会場がアクティブライフ井原で約40人参加)、市外への出前観望事業を1回実施。 高梁川流域連盟発行の「高梁川流域パスポート」利用の小学生を受け入れ。 金光学園天文部の観測研修の受け入れと解析の指導。 美星スペースガードセンター関係団体と共同で、高校生向け観測実習「星の学校」を実施(12月)。			
	学校教育課との連携事業(ふるさと井原魅力発見事業)による観望の受け入れにより、学校等における体験活動の支援を行うことができた。 また、出前観望会等の実施により、天文の普及啓発を図ることができた。	A			

施 策	事 業	内 容	自 己 評 価	課題解決に向けた取組、展望等	第三者評価
	天文普及施設及びスペースガード関係団体等との連携による利用促進	倉敷科学センターで開催された「くらしき宇宙セミナー」に講師として協力した。 7月2日に井原線DE得得市に出店し、参加者へ美星のPRを行ったが、悪天候で昼間の星の観望は実施できなかった。 空宙ガールズミーティングに参加し、4D2Uの上映を行ったが、鑑賞者は14人とどまった。悪天候のため、アマチュア天文ファンによる星空観望は実施できなかった。	B くらしき宇宙セミナーの講師協力は美星天文台のボランティア候補者の養成につながった。 井原線DE得得市への出店日は悪天候のため、来場者が少なかった。 また、空宙ガールズミーティングの4D2U鑑賞者数も少なかった。	井原線DE得得市への出展時期の見直しを行う。	B
	市民無料公開日の利用促進	市民無料公開日を毎月1回実施した。市民利用者数は、年間100人（昼間12人、夜間88人）で、昨年実績95人（昼間18人、夜間77人）と微増。	A 昨年を上回る利用者数があり、利用促進を図ることができた。		A
	星空公園での各種イベントの実施と利用促進	星空公園公開観望会 3回 延べ40人（過去5年の平均は97人） 岡山大学の観測利用 0夜 延べ 0人 アマチュア等の観測利用 31夜 延べ 74人 天文台主催行事 2回 延べ 45人	B 公開観望会を継続して開催したが、悪天候等のために実施回数が少なく、参加者が過去の平均の半分以下にとどまった。アマチュア等による観測利用も若干減少したが、関東からの利用もあり、ニーズは高い。	イベントの継続的な実施と広報の充実を図る。	A 各種のイベントに鋭意取り組んでおり評価できる。
	図書館の整備と機能の充実				
	図書館配本ネットワークの利用促進	公用車を利用し、より機動力のある配本ネットワークを確立することにより、利用者の利便性の向上を図った。火・金曜日一支所便を利用。水・土曜日→図書館公用車を利用。（参考：市外図書館との相互利用貸出実績904冊）	A 3館をネットワークで結び、予約等利用者の利便性の向上につながった。		A
	図書館蔵書の充実	蔵書数 井原（さくら号含む）199,663冊、芳井67,102冊、美星43,473冊 3館 合計 310,238冊	A 計画的な蔵書の購入により、蔵書の充実を図ることができた。		
	新刊図書及び図書館事業のPRと利用促進	市広報、ホームページ、図書館便り、各種ポスター・ちらし、お知らせくんによりPRと利用促進を図った。	A 新刊図書及び図書館事業のPRに努め、利用促進を図ることができた。		A
(2) 公民館の整備と機能の充実	①公民館の整備と機能の充実				
	地域の特徴を生かした公民館活動の推進	まちづくりや福祉事業の拠点施設として活用されており、各地域で特色のある事業が展開されている。	A 年々、各地域の活動が活発になっており、公民館活動の推進を図ることができた。		A
	笑って健康元気アップ事業の実施 地区公民館の企画による「笑いの講座」の開催	稲倉公民館 12/17 参加者 47名 大江公民館 2/18 参加者 150名 県主公民館 2/18 参加者 100名	A 来場者から好評の声を多くいただくことができた。		A
	パソコン講座等の支援 (貸出用パソコンの活用)	公民館などで実施されるパソコン講座等の支援のため、パソコンの貸出を行っている。	A 定期的に貸出しされており、十分活用することができた。		A
	地区公民館の施設・設備の整備充実	AED（自動体外式除細動器）12台を更新したほか、地区公民館のカーテン、ファクス、ワンタッチテント、ワイヤレスマイクシステム等の更新のほか、美星公民館の給水管の布設替え工事を行った。	A 地区公民からの要望に基づき、備品や施設の修繕を行い、利用者の安全・安心の確保と利便性の向上を図ることができた。		A
(3) 生涯学習関連情報の収集と提供の充実	①生涯学習ガイド等の充実				
	生涯学習ガイド「まなびすと」、子ども情報誌「でんしょぱと」等の作成	生涯学習情報だけでなく、文化・スポーツ等幅広い情報を掲載した生涯学習ガイド「まなびすと」を公民館や生涯学習関連施設等へ400部作成し配付した。 また、生涯学習情報誌「まなびめいと」を毎月発行し、生涯学習情報を提供した。 さらに、子ども情報誌「でんしょぱと」を年3回各6,000部作成し、市内保幼小中学生、教職員、公共施設に配布し、井原に関連する施設や児童生徒が関心のある情報について発信した。	A 生涯学習や文化・スポーツ、また、各地区の公民館活動などを掲載することにより、幅広い情報を提供することができた。		A
	②メディア等を活用した情報提供の充実				
	市ホームページでの生涯学習カレンダーの活用	生涯学習課、健康医療課、子育て支援課、図書館情報の一元化策として、生涯学習カレンダーを運用している。	A 生涯学習課をはじめとした複数部署のイベント情報を一元化することにより、効率的でタイムリーな情報発信を行うことができた。		A
	HP、Facebook、CATV、広報いばら、お知らせくん等の活用	広く市民に周知し参加してもらえるよう、機会あるごとに、ホームページの更新、CATVの出演等を行い、市広報やお知らせくんを通じ、行事の紹介や広報活動を積極的に行った。	A 市広報やホームページはもとより、様々なメディアを通じた情報発信を行うことができた。		A

施策	事業	内容	自己評価	課題解決に向けた取組、展望等	第三者評価
3. 市民と行政の協働による生涯学習の推進 (1) 生涯学習基本計画に基づく施策の推進	①生涯学習基本構想・基本計画に基づく施策の推進		A		A
	第2次生涯学習基本計画（改訂版）に基づく施策の推進	「生涯学習社会に対応する学習機会の提供・生涯学習環境の整備と充実・市民と行政の協働による生涯学習の推進・目標値の設定と計画の推進」を念頭に、家庭・地域・学校との連携を含め事業を実施している。			
	②社会教育委員会の機能の拡充強化		A		A
	社会教育委員の研修等の充実	9月に社会教育委員会を開催した。また、岡山県及び備中地区社会教育委員連絡協議会の実施する研修会をはじめ中四国地区研究大会へも積極的に参加した。			
(2) 生涯学習をすすめる市民組織づくりと活動支援	①市民組織づくりと活動支援		A		A
	アクティブライフ井原「まなびめいと」等の活動支援	事務局として「まなびめいと」のすべての事業に協力し、人的支援を行った。 ・いろは塾①野山散策&野草散策、②巣箱づくり、③凧揚げ大会 ・少年少女合唱団、ジュニア絵画、クラブ、ジュニア弦楽合奏団の指導 ・ジュニア絵画クラブ主催の油絵制作、写生教室、まなびフェスタへの作品出展 ・少年少女合唱団によるまなびフェスタへの参加やミニコンサートの開催 ・ジュニア弦楽合奏団によるラスパみずきへの慰問やまなびフェスタへの参加、ミニコンサートの開催 ・あたごっち大作戦、まなびフェスタへの出店 ・各種サークル等の活動支援、そのほか年間を通じて生涯学習情報誌の発行など。			
(3) 生涯学習推進担当の体制整備	①生涯学習推進担当の整備		A		A
	計画的な社会教育主事の育成	社会教育主事講習を平成22年度に1名、24年度に1名、26年度に1名、28年度に1名受講させ、社会教育主事有資格者の増に努めている。			
(4) 生涯学習リーダー等の養成	①人材活用の拡充		C	平成29年7月から「びんご人材ネットワーク」として人材バンク事業の地域を拡大したばかりであり、利用は2件であった。	C
	ボランティア活動の推進	井原市ふるさと人材バンクには、スポーツ部門34人、文化部門12人、生涯学習部門13人の計59人の登録があり、スポーツ部門では体験講座や指導者講座、文化部門では井原市史を読む会、歴史講座、ジュニア指導、また、生涯学習部門では、子どもを対象にした体験講座や教室、イベント等の場で指導を予定している。備後圏域6市2町による地方中枢拠点都市連携事業として「びんご人材ネットワーク」を設立し広域での利用もできることとなった。			
(5) 社会教育関係団体等の育成・支援	①成人団体や青少年団体の育成・支援		A	活動促進のための有効な助成となった。	A
	地区青少年を育てる会、連合少年団、女性協議会、PTA連合会の育成・支援	【補助金の交付】 井原市女性協議会 840千円 井原市PTA連合会 140千円 井原市連合少年団協議会 300千円 地区青少年を育てる会等 780千円（60千円×13地区） 井原市手をつなぐ親たちの会 130千円 友好親善都市交流事業費 1,050千円 井原警察署管内少年警察協働員連絡協議会 100千円 井原市人権教育協議会 75千円			
(6) 出前講座の充実	①出前講座の拡充と充実		A	講座回数・受講者数ともに昨年度に比べて増加しており、市民はもとより、行政職員の生涯学習に対する意識の向上が図られている。	A
	いきいきいばら出前講座の充実と利用促進	出前講座を実施（講座回数118回、受講者数2,792人） （28年度 講座回数 94回、受講者数2,453人）			
(7) 民間団体等との協働による事業の推進	①民間団体等との協働による事業の推進		A	事業の企画から実施まで、活動の支援は十分にできた。小学生を中心に写生大会などを主催することで、課外学習の機会を提供し、各種イベント等へも積極的に参加した。子どもゆめ基金の助成を受け、より充実した活動ができた。	A
	まなびめいと（少年少女合唱団・ジュニア絵画クラブ・ジュニア弦楽合奏団）の活動支援	事務局として事務的な運営を支援した。少年少女合唱団は、合唱フェスティバル・まなびフェスタに出演した。また、ジュニア弦楽合奏団は、まなびフェスタに出演、ラスパみずきで慰問コンサートを行った。さらに少年少女合唱団とジュニア弦楽合奏団とのジョイントでミニコンサート'18を行った。ジュニア絵画クラブは、田中苑周辺で写生大会を開催した。また、講座の周知を兼ねて合唱・ジュニア弦楽では夏休みに「夏休み体験」を開催し、歌や楽器に触れてもらう機会を設けた。まなびフェスタでは絵画クラブによる作品展示、合唱・弦楽による舞台発表を披露した。			
	宙ガールイベントへの協力	宙ガールズミーティングに協力し、昼間の4D2U連続上映を行ったが、参加者が14人に激減した（28年度は134人）。さらに、天文台周辺で小型望遠鏡による観望を行う予定であったが、悪天候のために実施できなかった。	※	参加者は少なかったが、次年度以降も継続してイベントに協力する。	※

平成29年度 教育委員会事務事業評価一覧表

教育行政重点施策体系

Ⅲ 豊かな感性を育むまちづくり（スポーツ活動の充実）

施策	事業	内容	自己評価	課題解決に向けた取組、展望等	第三者評価																																				
1. 生涯スポーツの振興 (1) いばら生き生きクラブの自立支援	いばら生き生きクラブの自立支援 ソフトバレーボール、ゴルフ、弓道、ソフトテニス、テニス、陸上競技、卓球（昼・夜）、合気道、華道、茶道、陶芸、野球、パウンドテニス、バドミントン（14種目15サークル）	いばら生き生きクラブ（14種目 会員数540名）（H28:14種目 会員数504名） ※「大人の楽トレ教室」参加者を含む。 クラブ会報の発行（年1回）（H28:年2回）	A 総合型地域スポーツクラブへの財政的支援及び人的支援ができた。 家族2人以上の入会で1人につき500円割引となる「家族割」を継続するなど会員の増加に取り組んだことなどにより、会員数の増加につながった。		A																																				
	県内ぐるっと筋力アップ促進事業の実施	県の補助事業を活用し、生き生きクラブの事業として「大人の楽トレ教室」を、平成27年度は美星地区で、平成28年度は芳井地区で実施した。 平成29年度は井原地区で実施（30人定員2教室、合計24回開催、参加者48名） （H28:12回開催、参加者30名）	A 高齢者を対象とした筋力アップトレーニングを主題として取り組んだ。 前年度に定員を超える申込があったことから、30名定員を2教室で開催し、多くの参加を得ることができた。 大人の楽トレ教室終了後、次年度からの自立を目指し有料での試行期間を設け、継続してトレーニングできる機会を提供することができた。		A																																				
(2) スポーツ推進委員による地域スポーツの振興	地域スポーツ教室等の実施	地域スポーツ教室等の開催（15回開催）（H28:13回開催） スポーツ推進委員の資質や技術の向上のための研修会を1回実施（H28:2回実施） 市行事への協力（市民体育祭、全国健康マラソン）	A スポーツ教室の開催回数も増えるなど、地域スポーツやニュースポーツを普及することができた。		A																																				
	市民スポーツの日への参画	「市民スポーツの日」ニュースポーツ体験コーナーの企画立案、実施	A 屋内競技で2種目、屋外競技で1種目のブースを設けたほか、リフレッシュ公園静のゾーンへ出張体験コーナー（2種目）を設け、多くの市民に体験してもらうことができた。		A																																				
(3) ニュースポーツの促進	ニュースポーツのPR	インディアカ（4セット）、キンボール（2セット）、グラウンド・ゴルフ（5セット）、スポーツチャンバラ（9セット）、ターゲット・バードゴルフ（8セット）、チャレンジ・ザ・ゲーム（4種目 2～10セット）、綱引き（3セット）、ティーボール（4セット）、ディスクゴルフ（4セット）、ディスクコン（6セット）、ふらばーボールバレー（3セット）、フリーテニス（4セット）、ペタンク（5セット）、ユニホック（3セット）、ラダーゲッター（2セット）、ゲートボール（10セット）	A ホームページ等で備品のPRを行うとともに、スポーツ推進委員が行う地域スポーツ教室での紹介や各種団体（校舎長会、公民館長会等）へ利用のPRができた。 （H28:16種⇒H29:16種）		A																																				
	備品の貸出	インディアカ（1件）、キンボール（5件）、グラウンド・ゴルフ（19件）、スポーツチャンバラ（0件）、ターゲット・バードゴルフ（5件）、チャレンジ・ザ・ゲーム（10件）、綱引き（5件）、ティーボール（1件）、ディスクゴルフ（3件）、ディスクコン（8件）、ふらばーボールバレー（5件）、フリーテニス（1件）、ペタンク（1件）、ユニホック（1件）、ラダーゲッター（3件）、ゲートボール（1件）	A 地域が行う子供会や放課後児童クラブなどに多くの備品を貸し出すことができ、活用が図られた。 （H28:72件⇒H29:69件）		A																																				
2. 競技スポーツの振興 (1) スポーツ施設の活用	井原市体育協会との連携 （各種スポーツ大会の開催）	※下記以外に、各スポーツ協会やスポーツ少年団等による大会や招待試合等が開催されている。																																							
	《井原体育館・芳井体育館》	<table border="0"> <tr> <td></td> <td>【H29年度】</td> <td>【H28年度】</td> </tr> <tr> <td>バレーボール大会</td> <td>(6大会 1,282名参加)</td> <td>(6大会 889名参加)</td> </tr> <tr> <td>卓球大会</td> <td>(2大会 231名参加)</td> <td>(2大会 255名参加)</td> </tr> <tr> <td>バドミントン大会</td> <td>(3大会 1,031名参加)</td> <td>(3大会 925名参加)</td> </tr> <tr> <td>空手道大会</td> <td>(1大会 23名参加)</td> <td>(1大会 27名参加)</td> </tr> <tr> <td>柔道大会</td> <td>(1大会 190名参加)</td> <td>(1大会 250名参加)</td> </tr> <tr> <td>剣道大会</td> <td>(1大会 57名参加)</td> <td>(1大会 37名参加)</td> </tr> <tr> <td>合気道演武会</td> <td>(1大会 12名参加)</td> <td>(1大会 33名参加)</td> </tr> <tr> <td>ソフトバレーボール大会</td> <td>(2大会 162名参加)</td> <td>(2大会 158名参加)</td> </tr> <tr> <td>太極拳体験講習会</td> <td>(1講習会 118名参加)</td> <td>(1講習会 120名参加)</td> </tr> <tr> <td>井原カップ男子新体操競技大会</td> <td>(1大会 160名参加)</td> <td>(1大会 140名参加)</td> </tr> <tr> <td>井原新体操フェスティバル</td> <td>(1大会 1,200名参加)</td> <td>(1大会 1,500名参加)</td> </tr> </table>		【H29年度】	【H28年度】	バレーボール大会	(6大会 1,282名参加)	(6大会 889名参加)	卓球大会	(2大会 231名参加)	(2大会 255名参加)	バドミントン大会	(3大会 1,031名参加)	(3大会 925名参加)	空手道大会	(1大会 23名参加)	(1大会 27名参加)	柔道大会	(1大会 190名参加)	(1大会 250名参加)	剣道大会	(1大会 57名参加)	(1大会 37名参加)	合気道演武会	(1大会 12名参加)	(1大会 33名参加)	ソフトバレーボール大会	(2大会 162名参加)	(2大会 158名参加)	太極拳体験講習会	(1講習会 118名参加)	(1講習会 120名参加)	井原カップ男子新体操競技大会	(1大会 160名参加)	(1大会 140名参加)	井原新体操フェスティバル	(1大会 1,200名参加)	(1大会 1,500名参加)	A 種目、大会によって前年度からの参加者数の多少はあるが、計画していた大会を実施することができ、全体では参加者が増加した。 （H28:10競技 19大会 1講習会 4,334人⇒ H29:10競技 19大会 1講習会 4,466人）		A
		【H29年度】	【H28年度】																																						
バレーボール大会	(6大会 1,282名参加)	(6大会 889名参加)																																							
卓球大会	(2大会 231名参加)	(2大会 255名参加)																																							
バドミントン大会	(3大会 1,031名参加)	(3大会 925名参加)																																							
空手道大会	(1大会 23名参加)	(1大会 27名参加)																																							
柔道大会	(1大会 190名参加)	(1大会 250名参加)																																							
剣道大会	(1大会 57名参加)	(1大会 37名参加)																																							
合気道演武会	(1大会 12名参加)	(1大会 33名参加)																																							
ソフトバレーボール大会	(2大会 162名参加)	(2大会 158名参加)																																							
太極拳体験講習会	(1講習会 118名参加)	(1講習会 120名参加)																																							
井原カップ男子新体操競技大会	(1大会 160名参加)	(1大会 140名参加)																																							
井原新体操フェスティバル	(1大会 1,200名参加)	(1大会 1,500名参加)																																							
《陸上競技場・芳井運動場・美星運動場》	<table border="0"> <tr> <td></td> <td>【H29年度】</td> <td>【H28年度】</td> </tr> <tr> <td>陸上競技大会</td> <td>(1大会 393名参加)</td> <td>(1大会 407名参加)</td> </tr> <tr> <td>サッカー大会</td> <td>(1大会 312名参加)</td> <td>(1大会 339名参加)</td> </tr> <tr> <td>ソフトボール大会</td> <td>(雨天中止)</td> <td>(1大会 240名参加)</td> </tr> <tr> <td>少年ソフトボール大会</td> <td>(1大会 269名参加)</td> <td>(1大会 223名参加)</td> </tr> <tr> <td>ゲートボール大会</td> <td>(2大会 143名参加)</td> <td>(2大会 196名参加)</td> </tr> <tr> <td>市長杯野球大会</td> <td>(1大会 357名参加)</td> <td>(2大会 388名参加)</td> </tr> <tr> <td>軟式野球大会</td> <td>(1大会 400名参加)</td> <td>(2大会 393名参加)</td> </tr> </table>		【H29年度】	【H28年度】	陸上競技大会	(1大会 393名参加)	(1大会 407名参加)	サッカー大会	(1大会 312名参加)	(1大会 339名参加)	ソフトボール大会	(雨天中止)	(1大会 240名参加)	少年ソフトボール大会	(1大会 269名参加)	(1大会 223名参加)	ゲートボール大会	(2大会 143名参加)	(2大会 196名参加)	市長杯野球大会	(1大会 357名参加)	(2大会 388名参加)	軟式野球大会	(1大会 400名参加)	(2大会 393名参加)	B 雨天のため中止となった大会があるなど不可抗力の要因はあるものの、参加チームが少なく会場を集約したことにより大会数、参加者数とも減少した。 （H28:5競技 10大会 2,186人⇒ H29:4競技 7大会 1,874人）	参加しやすい日程での開催や市外からの参加機会を設けるなど大会開催を工夫する。	B													
	【H29年度】	【H28年度】																																							
陸上競技大会	(1大会 393名参加)	(1大会 407名参加)																																							
サッカー大会	(1大会 312名参加)	(1大会 339名参加)																																							
ソフトボール大会	(雨天中止)	(1大会 240名参加)																																							
少年ソフトボール大会	(1大会 269名参加)	(1大会 223名参加)																																							
ゲートボール大会	(2大会 143名参加)	(2大会 196名参加)																																							
市長杯野球大会	(1大会 357名参加)	(2大会 388名参加)																																							
軟式野球大会	(1大会 400名参加)	(2大会 393名参加)																																							

施 策	事 業	内 容	自 己 評 価	課題解決に向けた取組、展望等	第三者評価
	《野球場》				
	野球大会	野球大会 (3大会 875名参加) (H28:4大会 781名参加)	A	参加チームが増加したため、参加者数は増加した。	A
	《庭球場》				
	庭球大会	庭球大会 (6大会 371名参加) (H28:6大会 332名参加)	A	テニスの大会で市外からの参加を認めたため参加者は増加した。	A
	《弓道場》				
	弓道大会	弓道大会 (2大会 58名参加) (H28:2大会 64名参加)	B	弓道会や生き生きクラブが大会参加者の中心であり、会員の減少が大会参加者の減少となっている。	B
	《グラウンド・ゴルフ場》				
	グラウンド・ゴルフ大会	グラウンド・ゴルフ大会 (4大会 863名参加) (H28:4大会 864名参加)	A	例年と同じ規模で大会を開催することができた。	A
	《ロード》				
	市民サイクリング大会、井原市駅伝競走大会、県高校駅伝競走大会 (男女)	市民サイクリング大会 (2大会 49名参加) (H28:2大会 27名参加) 駅伝競走大会 (1大会 406名参加) (H28:1大会 418名参加) 県高等学校駅伝競走大会 (1大会 436名参加) (H28:1大会 427名参加) 中国高等学校駅伝競走大会 (0大会 0名参加) (H28:1大会 593名参加)	A	開催日や行程を検討したことにより、市民サイクリング大会は大会参加者を増やすことができた。 (H28:4大会, 872人⇒H29:4大会, 891人) ※中国高校駅伝を除く。	A
	《リフレッシュ公園野球場》				
	野球大会、ソフトボール大会、少年ソフトボール大会、サッカー大会	市長杯野球大会 (1大会 118名参加) (H28:0大会 0名参加) 軟式野球大会 (1大会 62名参加) (H28:2大会 305名参加) ソフトボール大会 (雨天中止) (H28:1大会 240名参加) 少年ソフトボール大会 (1大会 269名参加) (H28:1大会 223名参加) サッカー大会 (0大会 0名参加) (H28:1大会 339名参加)	B	雨天のため中止となった大会があるなど不可抗力の要因はあるものの、参加チームが少なく会場を集約したことにより大会数、参加者数とも減少した。 (H28:5大会, 1,107人⇒H29:3大会, 449人)	B
(2) 指導者の育成	講習会の実施				
	ソフトボール審判講習会、バレーボール審判講習会、軟式野球審判講習会、(新)指導者講習会	ソフトボール審判講習会 (27名参加) (H28: 46名参加) バレーボール審判講習会 (116名参加) (H28: 66名参加) 軟式野球審判講習会 (37名参加) (H28: 44名参加) 熱中症対策講座 (36名参加) (H28: 34名参加) 救急法講習会 (23名参加) (H28: 21名参加)	A	スポーツ振興に不可欠である指導者、審判員の技術を向上させることができた。指導を行う上で必要となる技術を習得するため、熱中症対策や救急法の講習を開催し、指導者の資質の向上が図られた。	A
(3) 団体の育成支援					
	体育協会、各スポーツ協会、スポーツ少年団、グループ等の活動支援	いばら生き生きクラブ (14種目会員数 540名 補助金 450千円) 井原市体育協会 (48大会実施 約14,000名参加 補助金2,394千円) ※スポーツ少年団、各スポーツ協会の育成は井原市体育協会が主体的に支援を行っている。	A	活発な活動に効果的な支援を図るなど、各種スポーツ団体への財政的支援及び人的支援ができた。 生き生きクラブの会員数は増加している。 体育協会は例年と同程度の大会数、規模で大会を開催することができた。	A
	興譲館高校陸上競技部への支援	興譲館高校陸上競技部 (補助金1,000千円)	A	「陸上競技のまち井原」の元気を発信するため、引き続き興譲館高校陸上競技部を支援することができた。	A
	新体操選手育成強化支援				
	井原高校、井原ジュニア新体操クラブ、sparkle井原R.G	井原高校新体操部 (補助金1,700千円) ジュニア新体操クラブ (補助金 700千円) sparkle井原R.G (補助金 500千円)	A	「新体操のまち井原」の元気を発信するため、引き続き選手育成強化支援事業として3団体を支援することができた。	A
	(新) トップアスリートの派遣	「市民スポーツの日」に岡山シーガルズとファジアーノ岡山の派遣を受け、スポーツ教室を開催した。	A	高い技術を習得できる機会を設けることにより、多くの参加者を集めることができた。	A
(4) 全市的行事としての取り組み	全市的大会の実施				
	全国健康マラソン井原大会、星の郷ふれあい健康マラソン大会、井原カップ男子新体操競技大会、井原新体操フェスティバル、市民ゴルフ大会	全国健康マラソン井原大会兼岡山県ハーフマラソン選手権大会 (2,027名参加) (H28:2,124名参加) 星の郷ふれあい健康マラソン大会 (960名参加) (H28:1,116名参加) 井原カップ男子新体操競技大会 (160名参加) (H28: 140名参加) 井原新体操フェスティバル (1,200名参加) (H28:1,500名参加) 市民ゴルフ大会 (72名参加) (H28: 173名参加)	A	市民スポーツの振興と健康づくりを啓発するとともに「新体操のまち井原」「陸上競技のまち井原」の推進をすることができた。	A

施策	事業	内容	自己評価	課題解決に向けた取組、展望等	第三者評価
(5) 体育功労者や優秀選手・団体の表彰・顕彰	井原市スポーツ表彰 顕功賞、栄誉賞、奨励賞、功労賞	井原市スポーツ奨励賞授与 (2名、0団体) (H28:1名、1団体)	A	特に優秀な成績を収めた選手への顕彰を行うとともに市民への周知を図ることができた。	A
	井原市体育協会長表彰 体育功労者・団体及び優秀選手・団体	体育協会長表彰 (功労者3名、優秀選手特別賞0名、優秀選手51名、優秀団体11団体) (H28:功労者5名、優秀選手特別賞1名、優秀選手69名、優秀団体8団体)	A	優秀な選手及び功労者を激励・顕彰するとともに市民への周知を図ることができた。	A
3. 健康づくり・体力づくり・仲間づくりとしてのスポーツの振興 (1) イベントの開催	市民体育祭の開催	15種目、オープン2種目に1,500名の参加があった。 H28:17種目 1,500名	A	スポーツ水準の向上と体育レクリエーション活動の振興を推進することができた。	A
	各種スポーツ教室の開催 (スポーツ人口の拡大) 弓道、庭球、卓球、バドミントン、新体操、水泳	弓道教室(4名参加)、庭球(テニス教室(12名参加)、ソフトテニス教室(9名参加))、卓球教室(17名参加)、バドミントン教室(16名参加)、水泳教室(17教室1,322名参加)、女子新体操教室(17名参加)、男子新体操教室(6名参加)、海洋クラブ(16名参加) H28⇒H29 増:男子新体操教室 H28:1,466名、H29:1,419名	A	主に初心者を対象としたスポーツ教室の開催により、底辺の拡大を図った。前年度未実施であった男子新体操教室を開催することができた。	A
(2) グラウンド・ゴルフ場の利用促進	グラウンド・ゴルフ場の利用促進事業の開催 公民館対抗3世代交流大会、会員交流大会	井原市GG大会 (1大会 243名参加) (H28:1大会 243名参加) 会員親睦GG大会 (2大会 494名参加) (H28:2大会 495名参加) 公民館三世代GG大会 (1大会 126名参加) (H28:1大会 126名参加) ※井原市グラウンド・ゴルフ場の利用状況 利用者数 33,193名 (H28: 32,638名) 会員数 342名 (H28: 352名) 大会参加 12大会2,083名 (H28:15大会3,593名)	A	高齢者のスポーツ活動の拠点となるだけでなく、幅広い年齢層の市民の健康づくりのため利用を呼び掛け、多くの大会参加や施設利用につながっている。	A
(3) スポーツによる交流	井原・魚津スポーツ交流 しんきろうマラソンへの選手団派遣	井原・魚津スポーツ交流事業 (補助金 342千円) しんきろうマラソン大会 (団長、選手10名) ※H27まではシニア・ジュニアの野球の選手派遣があった。	A	友好親善都市とのスポーツ交流を通して、より友好を深めるとともに、両市のスポーツの振興につながった。	A
(4) 市民スポーツの日の実施	「市民スポーツの日」事業の開催 毎年10月第2月曜日 (体育の日)	毎年10月第2月曜日(体育の日)を「市民スポーツの日」と定め、市民が気軽にスポーツに親しむ場を提供するとともに、スポーツの意義等について啓発を図る。 ○イベントの実施 10月9日(月)に井原体育館、陸上競技場等をメイン会場としてスポーツ体験ブース、健康ブースを設け、自由に体験してもらうことによりスポーツの大切さや楽しさを知ってもらうきっかけづくりを行った。また、飲食ブースを開設し、イベントを盛り上げた。 ○スポーツ施設の無料開放 スポーツ課所管のスポーツ施設を1日無料開放し、市民が気軽にスポーツに親しむ場を提供した。 ○スポーツ啓発ウィーク 市民スポーツの日前1週間を啓発ウィークとし、ノボリの掲示や井原放送等により市民にスポーツの大切さや意義についての啓発を図った。	A	スポーツ推進委員をはじめ多くの関係団体の協力を得て、体験ブースや健康ブースを設置して体験等をしてもらい、スポーツの大切さ等を啓発することができた。 当日は、子供からお年寄りまでの幅広い世代の参加があり、スポーツに親しむ場を提供することができた。 親子連れでにぎわうリフレッシュ公園静のゾーンへ出張し、ニュースポーツの体験コーナーを設け、体験してもらうことができた。 (H28:700人⇒H29:1,154人)	A
4. 文化・スポーツ振興協会との連携強化	スポーツの普及振興に寄与する事業及び活動を行う団体への助成事業	全国健康マラソン井原大会兼岡山県ハーフマラソン選手権大会 助成額 1,500,000円 晴れの国岡山駅伝競走大会選手派遣事業 助成額 137,808円	A	市民に、マラソン大会を通してレベルの高い選手に接する機会を提供することができた。 また、晴れの国岡山駅伝では、選手を派遣し、「陸上競技のまち井原」を県内外に発信することができた。	A
	スポーツ競技に功績をあげた者への激励事業	激励金 全日本バレーボール高等学校選手権大会 外79大会 162名 6団体 支給額 1,125,000円 ※別途、小田スポーツ・芸術振興奨励金として、12大会 14名に 70,000円の支出がある。	A	スポーツ競技等で、世界大会・全国大会・中国大会に出場する選手を対象に激励金を交付し、競技者の意欲向上につながった。	A

平成29年度 教育委員会事務事業評価一覧表

教育行政重点施策体系

IV 地域文化を体感できる活力あるまちづくり（芸術・文化の振興と文化財の保存・活用）

施策	事業	内容	自己評価	課題解決に向けた取組、展望等	第三者評価	
1. 交流を生み出す芸術・文化の振興 (1) 芸術文化活動の活性化	文化協会、各文化グループ等の育成・支援	市から文化協会に対して補助金747千円を交付、文化課において事務局支援を行った。 文化協会は、会員数1,325人、25専門部と48文化教室が活動し、文化祭、「伝統文化体験教室・和の楽校」、講師を囲む会等主催事業を開催するとともに、「文化協会だより」を年4回発行し、活動内容の広報に努めた。	A 近年、会員数は減少傾向であったが、休部であった将棋部が再開するなど、会員増に向けた取り組みの成果が現れ、平成29年度は増加となった。また、主催事業も活発に展開されており、適切な支援を行うことができた。		A	
	文化祭、文化教室での創作活動の推進	11月4日～11月5日の2日間、市民会館、勤労者体育センターを中心に井原市文化祭を開催し、各専門部、各文化教室の1年間の活動の成果を展示、発表を行った。 また、市民ギャラリーを活用して、それぞれの専門部、文化教室ごとに展示会や発表会が行われたほか、芳井・美星支部においては、3月に芸能発表会、文化発表会が開催された。	A 各専門部、教室の活動を支援するとともに、文化祭等の作品、発表の機会も提供することができ、創作活動の充実を図ることができた。		A	
	スクールコンサートの開催	9月11日の午後、市民会館大ホールにおいて、本市大江町在住の崎谷由佳利さんを招いて、トランペットコンサートを開催した。 市内小学校6校(高屋小・大江小・稲倉小・荏原小・井原小・芳井小)で総数471人の児童・先生が鑑賞した。 文化・スポーツ振興協会とさくらライオンズクラブの助成金で運営した。	A 崎谷さんの素晴らしい演奏を鑑賞することができ、児童・教職員が参加したトランペットの体験コーナーも盛り上がった。 奏者が本市在住であったことから、子どもたちにとって、身近な存在に感じられたようであった。		A	
	臨 「ふるさとかるた」の作成	ふるさと井原についての思い出、出来事、歴史や文化を盛り込んだ読み句を市内小中学校の児童生徒へ募集し、優秀作品44点でかるたを作成。郷土井原を見直すきっかけづくりとなった。300セット作成し、市内13幼稚園(各2)・13小学校(各7)・5中学校(各4)や10保育園(各2)へ配布するほか、児童会館・公民館等へ配布した。	A 市内の小中学生から井原についての読み句を募集することでふるさと井原を見直すきっかけとなった。		A	
	井原市文学賞の開催	平成26年度より児童・生徒文芸大会を文学賞に統合して実施している。一般の部は、5部門(短歌・俳句・現代詩・川柳・随筆)で作品を募集し、91点の応募があり、児童・生徒の部では、4部門(短歌・俳句・川柳・詩)で作品を募集し、4,840点の応募があった。 運営費の一部に文化・スポーツ振興協会の助成金を受けて運営することができた。	A 近年、一般の部の応募が、減少傾向にあるため、井原鉄道の広告やお知らせくんを利用するなど広報を積極的に行って90点を超える応募があった。児童・生徒の部は、昨年度を下回ったが、それでも4000点を大きく超える応募があり、子どもたちに文芸作品の魅力を伝える一助となった。		A	
	観月会の開催	中秋の名月にかかわる伝統行事である観月会を、市民会館・田中苑一帯で10月7日に開催し、2流派(表千家・裏千家)の茶席と三曲の演奏を行なった。会場となった市民会館ホワイエが満員になるほど、市内外より多くの方が来場し、盛況であった。 茶席券は537人分の売り上げがあり、市からの補助金50,000円を併せて、事業を実施した。	B 市内邦楽愛好家や茶道愛好家の参加と活動発表により、地域文化の向上と継承を図ることができた。 天候不良と茶席が1席減少したため、茶席の参加者は昨年より減少した。(H28: 610人)	伝統行事として今後も継続したいと考えており、参加者数の増加につながる行事内容を検討する。	B	
	田中美術館企画展・特別展の開催	平成29年度は、特別展を2回、企画展を1回、所蔵品展を3回開催した。 ○所蔵品展「平櫛田中とその弟子たち/中原悌二郎デッサン展」(4月1日～4月23日) 入館者数 637人 ○春季特別展「竹工芸の人間国宝 勝城蒼鳳展」(4月22日～6月12日) 入館者数 4,759人 ○所蔵品展「女性美の表現」(6月23日～9月10日) 入館者数 1,734人 ○第28回平櫛田中賞受賞記念「安藤榮作展」(9月15日～11月5日) 入館者数 3,358人 ○所蔵品展「田中美術館名品選」(11月10日～11月30日) 入館者数1,496人 ○企画展「井原の近代日本画展」(2月17日～3月31日) 入館者数1,048人 ◎平成29年度総入館者数 13,032人	A 春季特別展「勝城蒼鳳展」では、竹工芸という日本の伝統芸術を紹介する事ができ、新たな来館者層を開拓できた。また、田中賞記念展「安藤榮作展」では展示室の空間を十分に活かした展示内容で、田中賞を強く印象付けることができた。企画展においては、田中美術館が所蔵する作品のみでなく、井原市出身の日本画家の作品を企画展示したことで、彫刻だけでなく日本画の世界も紹介することができた。		A	
	田中美術館友の会の支援	田中美術館職員が友の会事務局を担当し、友の会が主催する各種事業(会報『尋牛』発行、美術鑑賞旅行、子ども教室等)を実施している。会員は田中美術館の常設展を無料で入館でき、また特別展では会期中2名まで入館できる招待券を発行することにより、優れた美術にふれる機会を多く提供した。 会員には、特別展の開催に際して、ポスター、チラシの発送作業や開会式の受付、作品監視のボランティアに参加してもらっている。平成29年度末の会員数は、157人であった。	B 会員に展示会の優待を行うことにより、豊かな情操を養う機会を提供できている。年2回の美術鑑賞旅行の実施により、会員相互の教養・親睦を深めることができた。会員数は減少傾向にあり、新規会員の獲得が困難な状況になっている。法人、団体等を対象とする特別会員の入会がなかった。(H28 161人)	会員層が高齢化しており、今後、友の会を担うことができる世代の新規会員を増やすため、SNSや美術館での積極的な勧誘を実施していくことにしたい。また、企業や法人などに周知し、団体での入会を促すなど、従来行っていない勧誘によってPRしていくことにしたい。	B	
	市民ギャラリーの利用促進	文化協会・文化教室等延べ15団体が作品展示等に使用したほか、一般の使用も4件あった。 ○利用件数 H27 19件(内一般 3件) H28 17件(" 5件) H29 19件(" 4件)	B 身近な作品発表の場として利用されているが、利用者数は横ばいの状況である。施設の老朽化も進んでいる。	2022年度の新美術館の建設に合わせて市民ギャラリーも美術館に併設し、リニューアルする計画で進めている。	B	

施策	事業	内容	自己評価	課題解決に向けた取組、展望等	第三者評価
	市民茶室の利用促進	月釜及び「生き生きクラブ」茶道教室の定例での使用や観月会・文化祭、楷の木ライトアップ茶会で延べ46件の使用があったほか茶道を楽しむグループの利用が1件あった。	A 観月会、文化祭、月釜、楷の木ライトアップ茶会などイベントの機会を活用して、茶の湯を楽しむ機会を提供することができた。		A
(2) 芸術・文化を通じた多様な交流の推進	田中美術館企画展・特別展の開催(再掲)	平成29年度は、特別展を2回、企画展を1回、所蔵品展を3回開催した。 ○所蔵品展「平櫛田中とその弟子たち/中原悌二郎デッサン展」(4月1日～4月23日) 入館者数 637人 ○春季特別展「竹工芸の人間国宝 勝城蒼鳳展」(4月22日～6月12日) 入館者数 4,759人 ○所蔵品展「女性美の表現」(6月23日～9月10日) 入館者数 1,734人 ○第28回平櫛田中賞受賞記念「安藤榮作展」(9月15日～11月5日) 入館者数 3,358人 ○所蔵品展「田中美術館名品選」(11月10日～11月30日) 入館者数1,496人 ○企画展「井原の近代日本画展」(2月17日～3月31日) 入館者数1,048人 ◎平成29年度総入館者数 13,032人	A 春季特別展「勝城蒼鳳展」では、竹工芸という日本の伝統芸術を紹介する事ができ、新たな来館者層を開拓できた。また、田中賞記念展「安藤榮作展」では展示室の空間を十分に活かした展示内容で、田中賞を強く印象付けることができた。企画展においては、田中美術館が所蔵する作品のみでなく、井原市出身の日本画家の作品を企画展示したことで、彫刻だけでなく日本画の世界も紹介することができた。		A
	臨 雪舟サミットへの参加	第16回雪舟サミットを11月11日(土)、三原市芸術文化センターポポロで「雪舟と世界のつながり」と題して開催した。参加市は、三原市のほか井原市、総社市、益田市、防府市、山口市。	A 今回の開催地・三原市芸術文化センターポポロにおいて、一般のお客様も多数入場されている中、リレートークではパワーポイントを使用して特産品など井原市の魅力を十分に紹介することができた。		A
(3) 文化施設の整備と特色づくり	臨 文化財センター施設改修事業	外構フェンス設置工事 東西北面にメッシュフェンス(延長129m)を新設 3,856,680円	A 老朽化したブロック塀を撤去し、メッシュフェンスを設置し、地震による倒壊を防止し、安全を確保することができた。		A
	田中美術館所蔵作品の修復	平櫛田中作 石膏「ふみちゃん」「幾久代」 安田鞆彦作 紙本墨書・卷子装「良寛偈」 皆川淇園作 紙本墨書・軸装「尋李九莊詩意図」を修復した。 事業費 642,600円	A 平櫛田中作石膏についてはひび割れ修復と洗浄、また、紙本墨書は洗浄と仕立て直しを行い、いずれの作品も展示に耐えうる状態となった。		A
	臨 田中苑高木等剪定事業	植樹後40年が経過し、高木化した樹木が倒木する危険性があり、また、密集している場所が多数あり、樹木の健全な成長が望めないため剪定を行った。 高木剪定 6m以上75本 6m未満68本 松剪定 5m以上9本 その他 小中木剪定 事業費 2,970,000円	A 高木の剪定を行ったことより、日当たりも改善され樹木の健全な成長が望めるようになった。また、倒木の危険性を回避する事ができた。		A
2. 文化財の保存と活用 (1) 文化財・歴史的資源の保存・活用	文化財保護審議会の開催(指定文化財の検討)	木造龍神像(美星町星尾神社所蔵)と木造神像(4軀一具)(美星町高澤寺所蔵)の市指定重要文化財の指定について、審議会で審議し、指定が妥当であると答申した。また、現地視察を実施したほか市指定文化財の修復状況、現状変更等について委員へ報告した。	A 新たに2件の市指定重要文化財を指定し、文化財保護を進めることができた。		A
	文化財センターの活用	民間の開発事業に係る確認調査や立会調査を実施し、埋蔵文化財の保存に努めた。整理すべき文化財は発見されなかった。	A 開発事業の立会調査を実施することにより、埋蔵文化財の保存・活用に係る普及・啓発を図ることができた。		A
	体験講座・考古学講座・文化財めぐりの開催	昨年の考古学講座に引き続き、中世城館をテーマに考古学講座を2回開催したほか、染め物体験や勾玉づくりなどセンター講座を6回、文化財巡りを2回実施した。延べ270人が参加した。	A 総参加人数は、昨年度を上回り、井原市内の城館跡や文化財について、学習の機会を提供できた。(H28:258人)		A
	文化財センター企画展の開催	平成29年度は企画展を4回開催した。 ○春季企画展「江戸時代の和算家 谷東平」(4月29日～5月28日) 入場者数 494人 ○夏季企画展「井原市の無形民俗文化財～備中神楽と渡り拍子～」(7月22日～9月3日) 入場者数 665人 ○秋季企画展「一山岳信仰と井原一野上町・千手院に伝わる文化財」(10月21日～11月26日) 入場者数 773人 ○冬季企画展「古代山陽道を掘るー毎戸遺跡の調査成果よりー」(2月3日～3月11日) 入場者数 366人 ◎文化財センター企画展入場者数合計 2,298人	A 普段見ることができない近隣の遺跡や郷土の資料を紹介することができた。特に野上町千手院に伝わる文化財の展示は、市民等の関心が高く、700人を超える入場者があり、年間の入場者数は前年度実績を上回った(H28:2,038人)		A
	歴史講座の開催	3月13日、20日の2回、テーマを「～保存と継承～岡山の世界記憶遺産」とし、アクティブライフ井原で開催した。参加者計:140人	B 平成29年度に世界記憶遺産となった朝鮮通信使と東寺百合文書についてわかりやすく解説することができた。昨年度に比べると参加者数が減少した。(H28:177人)	興味を引くことができる企画に努めたい。	B
	歴史人物紹介事業の実施	歴史人物や市内の文化財をインターネットで公開するホームページ「井原歴史館」をリニューアルした。	A ホームページをリニューアルすることにより新たな井原市の情報を発信することができた。		A

施策	事業	内容	自己評価	課題解決に向けた取組、展望等	第三者評価
	出前講座の推進	市民団体等の申し出により、随時出前講座を実施した。 実施回数 30回 (H28: 19回) 参加者 延べ960人 (H28: 586人)	A 昨年と比較すると市民団体他からの要望が大幅に増加し、実施回数が1.5倍となった。市民が郷土の文化・歴史に興味や愛着を持つような取組みとすることができた。		A
	歴史民俗資料館の活用	郷土の偉人を中心に常設展を開催。入館者数は、500人であった。(特別展、企画展での入館者を除く)	A 井原の歴史人物を紹介する常設展での入館者が昨年度とほぼ同数であり、市内外に井原の文化遺産の情報発信をすることができた。(H28: 507人)		A
	歴史民俗資料館特別展・企画展の開催	平成29年度は、企画展1回、特別展1回を開催した。 ○春季企画展「おもちゃと民具～昔の子どもの生活より～」 (4月23日～6月4日) 入館者数 363人 ○特別展「戸田天波一人物画から花鳥図まで」 (10月14日～12月3日) 入館者数 796人 ◎来館者合計 1,159人	A 昨年に比べて入館者数が1.5倍となった。郷土の画家について多くの方に知ってもらうことができた。(郷土の画家は人気があり、今後も市民の関心が高い展示を心がけ、入館者増につなげたい。) (H28: 839人)		A
	星の郷民具伝承館の活用	地域に残された民具を収蔵、展示した。平成29年度は、他のイベントとの連携ができず、入館者数は52人にとどまった。収蔵品は、文化財センターや芳井歴史民俗資料館の展示に活用することができた。(H28入場者数: 30人)	B 職員が常駐していないため利用者の増加がなかなか図れていない。今後も引き続き他のイベントとの連携や資料の貸し出し等で活用を図りたい。	展示施設としては寿命を迎えており、大規模改修等は見込めないことから、学校等で民具を活用するなど、収蔵資料の活用を図りたい。	B
	桜溪漢学塾公園の管理・活用	桜溪漢学塾公園の清掃管理を行うとともに、資料館の管理を地元自治会に委託した。H29年度も公園の法面をイノシシが掘り返す被害が出たが、防護柵を補修したり、側溝の崩土除去を実施した。	A 委託による草刈り、剪定のほか、直営でイノシシ対策を実施することができた。		A
	文化財保護・保存及び助成事業	文化財所有者の適正な管理を促進するため、保護・保存について補助を行う。	※ 平成29年度は、文化財所有者からの補助要望がなく未実施。		※
	臨 「まんが井原昔ばなし」販売促進	平成28年度で作成した「まんが井原昔ばなし」DVD販売を引き続き行い、平成29年度は28枚販売した。	B 市内の書店へ置いてもらうなど販売個所の追加、文化財センター講座開催時等でも取り扱ったが販売は伸びなかった。	各種イベントで販売するほか、市内の書店以外にも置いてもらい、販売促進に努めたい。	B
(2) 伝統芸能や祭りの保存・活用	伝統芸能記録映像DVDの公開と活用	文化財や歴史、偉人などの情報発信を行うホームページ「井原歴史館」をリニューアルし、平成28年度作成した伝統芸能の映像を新たなコンテンツとして追加した。	A リニューアルしたホームページで伝統芸能を情報発信することで、今日まで継承されている貴重な伝統芸能の情報を発信することができた。		A
	伝統芸能の保存・継承 渡り拍子保存会など	三原渡り拍子保存会及び種祭り愛好会の2団体へ活動費の補助を実施(補助金額合計45,000円)したほか、備中神楽(出部)、長発太鼓(井原)の2団体が国の助成を受け、伝承者育成の教室を開講した。	A 活動の補助を行うことにより、地域に伝承される伝統文化の保存・継承が図られた。		A
3. 文化・スポーツ振興協会との連携	文化功績者への激励事業	「高校生科学技術チャレンジ」や「日展」等12大会で、15人に激励金(5,000円)を交付した。	A 文化活動で活躍した市民を激励することにより地域文化の向上が図られた。		A
	スクールコンサートの開催(再掲)	9月11日の午後、市民会館大ホールにおいて、本市大江町在住の崎谷由佳利さんを招いて、トランペットコンサートを開催した。市内小学校6校(高屋小・大江小・稲倉小・荻原小・井原小・芳井小)で総数471人の児童・先生が鑑賞した。文化・スポーツ振興協会とさくらライオンズクラブの助成金で運営した。	A 崎谷さんの素晴らしい演奏を鑑賞することができ、児童・教職員が参加したトランペットの体験コーナーも盛り上がった。奏者が本市在住であったことから、子どもたちにとって、身近な存在に感じられたようであった。		A
	井原市文学賞の開催(再掲)	平成26年度より児童・生徒文芸大会を文学賞に統合して実施している。一般の部は、5部門(短歌・俳句・現代詩・川柳・随筆)で作品を募集し、91点の応募があり、児童・生徒の部では、4部門(短歌、俳句、川柳、詩)で作品を募集し、4,840点の応募があった。運営費の一部に文化・スポーツ振興協会の助成金を受けて運営することができた。	A 近年、一般の部の応募が、減少傾向にあるため、井原鉄道の広告やお知らせくんを利用するなど広報を積極的に行って90点を超える応募があった。児童・生徒の部は、昨年度を下回ったが、それでも4000点を大きく超える応募があり、子どもたちに文芸作品の魅力を伝える一助となった。		A

平成29年度 教育委員会事務事業評価一覧表

教育行政重点施策体系

V 生きる力を育むひとづくり・まちづくりのための学習環境づくり（時代に対応した教育施設・機能の整備・充実）

施策	事業	内容	自己評価	課題解決に向けた取組、展望等	第三者評価
1. 学校（園）施設・設備の整備	○校舎建設事業				
	中学校 1校（井原中学校校舎）	施工監理業務委託 19,472,400円 学校施設建設工事 292,377,600円（南校舎解体工事、特別教室棟建設工事）	A	計画どおり実施できた。	A
	○空調設備設置工事				
	小学校 5校 （空調設備機器の設置工事等） 幼稚園 10園 （H30設置予定の設備設計等）	空調設備整備工事（小学校5校：野上、井原、出部、芳井、美星） 177,466,680円 空調設備整備工事実施設計業務（幼稚園10園：荏原、西江原、出部を除く） 2,268,000円	A	計画どおり実施できた。	A
	○営繕工事				
	小学校（6件） （アルミ製建具改修工事等）	8,652,960円 外壁修繕工事（芳井）、防水改修工事（稲倉）、プールろ過ポンプ更新工事（出部）、プール漏水修繕工事（西江原）、アルミ製建具改修工事（美星）、スクールバス車庫新設工事（芳井）	A	計画どおり実施できた。	A
	中学校（4件） （放送設備更新工事等）	5,454,000円 放送設備更新工事（高屋）、照明器具更新工事（芳井） 特別教室棟床改修工事（高屋）、舗装修繕工事（美星）			
	給食センター（1件）	1,706,400円 給水・給湯立上り管取替工事（美星）			
	○校具、教具備品				
	小学校	17,374,025円 管理備品（人工芝、事務用パソコン、カーテン、机、書架等） 振興備品（児童及び教員研修用図書、楽器、プロジェクター、テレビ デジタルカメラ、理科教育振興備品等）	A	計画どおり実施できた。	A
	中学校	10,879,389円 管理備品（事務用椅子、テーブル、パーテーション等） 振興備品（楽器、書画カメラ、プロジェクター、理科教育振興備品、特別支援学級教材等）			
	幼稚園	10,051,433円 備品（教員研修用図書、ワイヤレスアンプ、自動紙折り機 デジタル複合機、預かり保育開始用備品等）			
	給食センター	1,532,080円 サイン目切機（井原）、ステンレス角形二重食缶（美星）			
2. 社会教育施設・設備の整備	○公民館				
	備品の整備 （カーテンの更新等）	2,723,163円 AED 12台 1,620,000円（旧井原市公民館11館 芳井公民館）、 カーテン、デジタルコードレスファクス（高屋）、ワンタッチテント（荏原・ 野上・大江） ワイヤレスマイク（荏原）、ピンマイク等（大江）	A	公民館活動を行う上で必要な備品を更新し、利用者の利便性向上を図ることができた。	A
	○ふれあいセンター				
	備品の整備 （人権啓発教材等）	218,160円 人権啓発DVD（3枚） 「ここから歩き始める」・「防ごう 子どもの虐待」・「障害のある子障害のない子」	A	人権啓発教材の計画的整備により、学校や公民館等での活用が図ることができた。	A
	○アクティブライフ井原				
施設設備の整備充実	非常照明設備等修繕 190,080円 カーテン取替 108,000円 照明安定期取替 172,800円 受水槽配管修繕 106,218円 備品整備 視聴覚ライブラリー用DVD（3枚） 186,732円	A	利用環境の整備充実を図るとともに視聴覚ライブラリーの充実を図ることができた。	A	
○芳井生涯学習センター					
施設設備の整備充実	空調機器修繕 378,000円 ホール吸収式冷温水機部品取替 783,000円 エレベーター修繕 572,400円	A	空調機器やエレベーターの修繕により、利用者の利便性向上や快適な利用環境の確保を図ることができた。	A	

施 策	事 業	内 容	自 己 評 価		課題解決に向けた取組、展望等	第三者評価	
	○文化財センター						
	フェンス設置	3,856,680円 外構フェンス設置工事（東西北面にメッシュフェンス（延長129m）を新設）	A	老朽化したブロック塀を撤去し、メッシュフェンスを設置し、地震による倒壊を防止し、安全を確保することができた。		A	
	○美星天文台						
	天文台ドーム昇降床修繕	天文台ドーム昇降床修繕 408,672円	A	経年劣化した昇降床の修繕により、101cm望遠鏡一般観望利用者の安全を確保することができた。		A	
	備品の整備（天体観測用フィルター）	天体観測用Bフィルター、天体観測用Vフィルター 128,088円	A	101cm望遠鏡占有観測利用者と天文学界から信頼される観測データが得られるようになった。		A	
	○図書館						
	備品の整備（図書、DVD、CD他）	17,170,951円 ウイルス対策ソフト購入 図書：10,225冊、DVD：33枚、CD：42枚 購入	A	蔵書の充実を図ることができた。		A	
	○運動公園等						
	井原運動公園庭球場人工芝改修工事（井原運動公園）	庭球場人工芝改修工事 15,832,800円	A	改修工事を施工するとともに必要な備品を整備し、施設を最適な状態に保つとともに、安心・安全で利用しやすい施設環境の提供を図ることができた。		A	
	備品の整備（器具及び体育器具）	器具費 エアコン（1台）与一記念弓道場更新 170,640円 体育器具費 卓球台（3台）井原体育館更新 487,620円 ホッピングマット等新体操練習用具（一式）新設 972,000円 その他（折りたたみベンチ、卓球防球フェンス）更新 162,345円					
	○海洋センター						
	備品の整備（器具）	器具費 AED（1台）井原海洋センター更新 135,000円					